構造特記仕様書（施工方法等計画書、使用材料一覧表を兼ねる）

1 共通事項

・ 図面及び本仕様書に記載されていない事項は、
「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）」（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修、令和7年版）
による。
・ 項目番号に ○ 印を付した項目を適用範囲とし、さらに、その項目内で ○ 印の付いているものは
● 印を適用とする。
・ 設計図書の優先順位は次の通りとする。
1. 質疑回答書、現場指示書
2. 設計図及び本特記仕様書
3.「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）」
・ 各工事前に施工要領書、計画書を提出し、不明事項に関しては監理者と十分に打合せを行うこと。

2 土工事

① 根切り及び埋戻し

・ 埋戻し及び盛土　○ A種（山砂の類）
● B種（根切り土の中の良質土）
○ C種（他現場の建設発生土の中の良質土）
○ D種（再生コンクリート砂）
・ 建設発生土の処理　● 構内処理
○ 構外搬出　搬出場所：

2. 山留め

・ 山留めの設置　○ 親杭横矢板壁
○ 鋼矢板壁（シートパイル）、鋼管矢板壁
○ 柱列山留め壁
○ 連続地中壁
○ その他　（　）
・ 山留めの撤去　○ 存置する
○ 存置しない
・ 確認・検査項目　○ 山留め工事施工計画書（計算書を含む）

3 地業工事

1. 直接基礎

・ 基礎の形式　○ 独立基礎　○ 布基礎　● べた基礎
・ 支持層及び長期許容支持力度　砂礫層　－　（kN/㎡）
・ 地盤改良工事
・ 工　法　○ 浅層混合工法
○ 深層混合工法
○ ラップル・コンクリート
・ 改良深さ　―
・ 設計基準強度　― （kN/㎡）
・ 確認・検査項目　○ 床付け検査
○ 地盤調査　調査名
試験箇所数
○ 平板載荷試験　試験箇所数
最大荷重

② 杭基礎

・ 杭の寸法、継手箇所、支持層及び許容支持力は図面による。
・ 杭の支持力算定は、平成13年7月2日国土交通省告示第1113号による。
・ 杭の施工後の処理　○ 杭芯ずれの許容値　±100（mm）
○ 杭頭レベルずれの許容値　±30（mm）
○ 許容値を超えた場合は監理者の指示による補強を行う。
・ 確認・検査項目　○ 杭芯ずれ報告書
○ 施工結果報告書
○ 試験杭　［ ○ 最初の1本　○ 図面に指示 ］
○ 試験掘り　深さ　G.L.－（m）
本数　（本）
○ 杭頭補強　杭頭補強の施工要領は図面による。

3. 既製コンクリート杭

・ 杭の種類　○ PHC杭　［ ○ A 種　○ B 種　○ C 種 ］
○ PRC杭　［ ○ I 種　○ II 種　○ III種 ］
○ ST杭
○ SC杭　鋼材種別
○ 鋼管杭　鋼材種別 STK490
○ 節杭
・ 杭の施工方法
・ 打込み工法　○ プレボーリング併用打撃工法
○ 打撃工法
・ ハンマー種別　○ ディーゼルハンマー　○ 油圧式ハンマー
・ オーガー径　杭径－50（mm）程度
・ プレボーリング長　本杭長－2.0（m）
・ ベントナイト安定液　使用［ ○ する　○ しない ］
・ 埋込み工法　○ セメントミルク工法
○ 中掘り工法
○ 回転圧入工法
○ 特定埋込み杭工法
・ 杭の形状
・ 先端形状　○ 開放型　○ 閉塞型
・ 継手　○ なし　○ あり［ ○ アーク溶接　○ その他（無溶接継手）］
・ 杭頭部の処理　○ ダイヤモンドカッターにより所定の高さに切り揃える。
○ 杭頭部の空洞に底板を敷き、基礎コンクリートの流入を避ける。

4. 場所打ちコンクリート杭

・ 杭の種類　○ A 種（無水掘り）　○ B 種（無水掘り以外）
・ 杭の施工方法　特殊工法の場合は監理者の承諾を得ること。
・ 掘削工法　○ アースドリル工法
○ オールケーシング工法
○ リバースサーキュレーション工法
○ BH工法
○ 拡底杭工法
○ 深礎工法
・ 特殊工法　○ 拡頭杭工法
○ 鋼管コンクリート杭工法

⑤ 砂利、捨てコンクリート地業

・ 砂利の種類　● 再生クラッシャラン（RC-40）
○ 切込み砂利
○ 切込み砕石
・ 砂利及び捨てコンクリート地業の厚さは以下の通りとする。

適用範囲	砂利地業	捨てコンクリート地業
基礎梁下	60（mm）	50（mm）
基礎スラブ下	60（mm）	50（mm）
土間スラブ下	60（mm）	―

4 鉄筋工事

① 鉄筋の種類、継手工法及び定着

・ 鉄筋は JIS G3112（鉄筋コンクリート用棒鋼）による規格品とする。
・ 溶接金網は JIS G3551（溶接金網及び鉄筋格子）による規格品とする。
寸法、形状及び鉄線の径は図面による。
・ 鉄筋の種類と適用範囲及び継手工法は下表による。

種　類	呼び径	継手工法	適用範囲
SD295A	D10～D16	重ね継手	躯体全般
SD345	D19～D25	ガス圧接継手	－
SD390	D29～D38	ガス圧接継手	－

・ 特殊継手　○ 機械式継手
○ 溶接継手
・ 継手位置及び定着長さは鉄筋コンクリート標準図による。

② 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔

・ かぶり厚さ及び間隔は鉄筋コンクリート標準図による。
・ HOOP、STP の加工に用いるかぶり厚さは、5（mm）を加えた数値を標準とする。
・ スペーサーは見本を提出して監理者の承諾を得ること。
・ スラブ筋に対しては鋼製バースペーサーを用いる。

3. ガス圧接

○ ガス圧接工は、JIS Z3881 による 2 種有資格者以上によること。
○ 圧接技量資格者の技量確認試験を行う。
○ ガス圧接完了後の試験
○ 外観検査　100（%）
○ 抜取り検査　一試験ロットは一組の作業班が一日に行った圧接箇所
○ 引張試験　3 本 / 一試験ロット
○ 超音波探傷試験　30 箇所 / 一試験ロット
・ 超音波探傷試験は JIS Z3062 により、専用の探傷機器を使用する。
・ 試験従業者はガス圧接工事に従事しない者とし、鉄筋ガス圧接部超音波探傷検査技術者技量資格を有する者とする。
・ 超音波探傷試験を行う場合も最初の1ロットについては引張試験も併用すること。
1回の試験は3本以上とする。

④ 設備配管との取合い、梁貫通孔の補強

● 設備配管と鉄筋の取り合いについては、設備施工者と十分に協議すること。
床スラブの電気配管については鉄筋コンクリート標準図を参考にして施工図書を作成し、提出のこと。
● 梁貫通孔の補強筋に、建築技術評価規定に基づく評価又は日本建築センター評定を受けたものを用いる場合、監理者の承諾を必要とする。

⑤ 確認・検査項目

・ 書類確認　● 材料証明
○ 鉄筋加工図
○ ガス圧接技取り試験結果
・ 立会い検査　● 配筋検査
・ 監理者による配筋検査前に施工者による自主検査を実施し、報告する。
配筋検査による是正事項は施工者の責任で是正し、写真記録を取ること。

5 コンクリート工事

① コンクリートの種類、強度及びスランプ

● 普通コンクリート　○ 軽量コンクリート

	設計基準強度	スランプ	使用範囲
●	18（N/mm²）	15（cm）	捨てコン
○	21（N/mm²）	15（cm）	
○		18（cm）	
○	27（N/mm²）	15（cm）	
●		18（cm）	躯体全般　基礎

・ レディーミクストコンクリートの種別　［ ● Ⅰ類　○ Ⅱ類 ］

② コンクリートの品質

・ コンクリート部材の位置及び断面寸法の許容差並びにその測定方法を施工計画書の品質計画において定め、監理者の承諾を得る。
・ コンクリート表面の仕上り状態
● 合板せき板を用いるコンクリートの打放し仕上げの種別　［ ● A 種　○ B 種　○ C 種 ］
● コンクリートの仕上り平坦さを施工計画書の品質計画において定め、監理者の承諾を得る。

③ 材料

・ セメント

	規　格	名　称	種　別	適用範囲
●	JIS R5210	ポルトランドセメント	普　通	躯体全般
○	JIS R5211	高炉セメント	○ A種　○ B種	―
○	JIS R5212	シリカセメント	○ A種　○ B種	―
○	JIS R5213	フライアッシュセメント	○ A種　○ B種	―

・ 混和材料

	種　類	規　格	名　称	種　別	適用範囲
○	混和剤	JIS A6204	AE剤	―	―
○			減水剤	○ 標準形 ○ 遅延形 ○ 促進形	―
●			AE減水剤	● 標準形 ○ 遅延形 ○ 促進形	躯体全般
○			高性能AE減水剤	○ 標準形 ○ 遅延形	―
○		JASS 5T-402	流動化剤	○ 標準形 ○ 遅延形	―
○		JIS A6205	防錆剤	―	―

・ 練混ぜ水　・ 練混ぜ水は JISA5308（レディーミクストコンクリート）附属書3（規定）による。
・ 骨材　・ 砂利、砂は JISA5308（レディーミクストコンクリート）による。
・ アルカリシリカ反応性による区分　［ ● A　○ B ］

④ 調合及び試験

・ 調合管理強度
● 設計基準強度に構造体強度補正値を加えた値以上とする。

・ 調合条件

単位水量	単位セメント量	水セメント比	所要空気量
185（kg/m³）以下	270（kg/m³）以上	65（%）以下	4.5（%）

・ 塩化物量試験
・ 試験回数は製造工場及びコンクリートの種類が異なるごとに、一日一回以上かつ、150（m³）ごと及びその端数につき一回以上とする。最初の測定は打込み当初とする。

・ 圧縮強度試験

試験種目		試験の目的	養生方法	材齢	試験回数
調合管理強度の管理試験	●	調合管理強度の管理	JIS A 1132による標準養生	28日	（※1）による
構造体コンクリート強度の推定試験	●	構造体コンクリートの材齢28日圧縮強度の推定	工事現場における水中養生		
	●	型枠取り外し時期の決定		必要に応じて定める。	
	○	構造体コンクリートの材齢28日を超え91日以内の圧縮強度の推定	工事現場における封かん養生	28日を超え91日以内	（※1）による

・ 試験回数は製造工場及びコンクリートの種類が異なるごとに一日一回以上かつ、150（m³）ごと及びその端数につき一回以上とする。（※1）
・ 強度試験は原則として、公的試験機関で行う。ただし、型枠脱型用試験は生コン会社でもよい。
・ 供試体の個数は、適切に間隔をあけた運搬車から 3 度に分けて、試験目的ごとに3個採取する。
ただし、調合管理強度の管理試験用は一台の運搬車から3個採取する。

⑤ 養生（建築基準法施行令第75条による）

・ 打込み後5日間以上は、コンクリート温度を2℃以上に保つ。
・ 打込み後のコンクリートは、普通ポルトランドセメント又は混合セメントA種の場合は5日以上、高炉セメントB種の場合は7日間以上、散水その他の方法で湿潤状態を保つ。
・ 硬化初期のコンクリートが、有害な振動や外力による悪影響を受けないようにする。

⑥ 型枠及び支保工（建築基準法施行令第76条による）

・ せき板の材料は複合合板とし、「コンクリート型枠用合板の日本農林規格」によるB-C 又は所要の品質を確保できるものとする。
・ せき板及び支保工の存置期間は、部位及びセメントの種類、気温に応じて、次表（A）の存置日数以上が経過するか、（B）の圧縮強度以上となるまでとする。
（B）の圧縮強度による場合、監理者に圧縮強度試験結果を提出の上、承諾を得ること。

	部　位	（A）平均気温に応じた存置日数			（B）コンクリートの圧縮強度
		15（℃）以上	5～15（℃）	5（℃）未満	
型　枠	基礎、梁側面、柱、壁	3	5	8	5（N/mm²）
	スラブ下、梁下	6	10	16	Fc の 50（%）
支保工	スラブ下	17	25	28	Fc の 100（%）
	梁　下	28			Fc の 100（%）

・ 支保工の盛りかえは下記に従う。
● 大梁の支保工の盛りかえは行わない。
● 直上階に著しく大きい積載荷重が存在する場合は、支保工の盛りかえは行わない。
● 支保工の盛りかえは、養生中のコンクリートに有害な影響をもたらす可能性のある振動や衝撃を与えないようにする。
● 支保工の盛りかえは逐次行い、同時に多数の支保工について行なわない。

7. 特殊コンクリート

○ 寒中コンクリート　適用期間：
○ マスコンクリート　適用箇所：
○ プレストレストコンクリート

⑧ 確認・検査項目

・ 書類確認　● 生コン調合表及び材料試験結果
● 圧縮強度試験結果
・ 立会い検査　○ 試験練り
● 型枠撤去後の躯体検査
・ 打込み不足、じゃんか、目違い等の有害な不良部分が認められた場合、監理者の指示により、施工者の責任で補修を行う。

6 鉄骨工事

① 鉄骨製作

○ 鉄骨製作工場は使用数量に応じて定める。いずれの場合においても、監理者の承諾を得ること。
・ 使用量が 30（t）を超える場合は国土交通大臣認定（（株）日本鉄骨評価センター又は（社）全国鉄構工業協会の認定）の工場とし、グレードは下記とする。
［ ○ S グレード　○ H グレード　○ M グレード　○ R グレード ］
・ 使用量が 30（t）未満の場合は、選定した鉄骨製作工場の施工実績、作業管理組織、工作設備等を記載した資料を提出の上、承諾を受けること。
○ 監理者が承諾した工場とする。
○ 全ての部材について 1/20 程度の詳細図を作成する。詳細図には仕上げ材取付け金物、仮設用金物などを含めて表現すること。
○ 鉄骨の製作精度は JASS6 鉄骨工事付則 6.「鉄骨精度検査基準」による。

② 鋼材種別

	規　格	種　別	適用範囲
●	JIS G3101	SS400	―
○	JIS G3136	SN400A	―
●		SN400B	―
○		SN490B	―
○		SN490C	―
●	JIS G3350	SSC400	―
●	JIS G3444	STK400	―
●		STK490	―
●	JIS G3466	STKR400	―
○		STKR490	―
○	その他（法37条に基づく認定品）	BCR295	―
○			

③ ボルト

○ 高力ボルト　○ S10T（トルシア形ボルト：JIS B1186 の 2 種相当）　認定品　MBLT-9010等
○ F10T（JIS形ボルト：JIS B1186 の 2 種）
○ F8T（溶融亜鉛めっき高力ボルト：JIS B1186 の 1 種 A）
○ 普通ボルト　ボルトは JIS B1180、ナットは JIS B1181 認定品とする。　認定品　MBTL-9026等
・ 摩擦面の処理の方法は標準仕様書による。
・ 溶融亜鉛めっき高力ボルトで、ボルトの長さが呼び径の 5 倍を超える場合のナット回転量は、実験により決定する。
・ 戻り止めとして、スプリングワッシャーなどを用いること。

④ アンカーボルト

○ 構造用　・ 特記なき場合はJIS G3138 による認定品の SNR400B とする。
・ 保持及び埋込み工法　［ ○ A 種　○ B 種　○ C 種 ］
○ 建方用　・ 特記なき場合はJIS G3101 による認定品の SS400 とする。
・ 保持及び埋込み工法　［ ○ 図面による ］
・ 柱底均しモルタル［ ○ A 種　○ B 種 ］

5. 頭付きスタッド及びデッキプレート

○ 頭付きスタッド　・ JIS B1198 認定品とする。
○ デッキプレート　○ 構造床　JIS G3352 による SDP1T とする。
○ 合成スラブ　JIS G3352 による SDP1T とする。
○ 型枠用　JIS G3352 による SDP1T 同等品とする。
・ スタッド溶接部分には塗装を行わないこと。
・ 合成スラブ用デッキプレートの溶接は焼抜き栓溶接とする。ただし、スタッドをデッキ上から溶接する場合は兼用してよい。

⑥ ターンバックル

・ 胴の種類　［ ○ 割枠式　○ パイプ式 ］
・ ボルトの種類　［ ○ 羽子板ボルト　○ アイボルト　○ 両ねじボルト ］

⑦ 溶接部の検査

○ 超音波探傷試験の規準は日本建築学会「鋼構造建築溶接部の超音波探傷検査規準」による。
○ ずれ、食い違い、アンダーカットの外観検査規準は、平成12年建設省告示第1464号による。
○ 工場溶接部
・ 工場溶接の場合の検査方法、抜取り率は下表による。一試験ロットは一節又は 300 溶接線程度とする。ロットからの抜取りは均等となるように無作為に行う。

溶接種類	検査種類	検査者及び検査率		
		社　内	第三者	監理者
完全溶込み溶接	外観検査	100（%）	100（%）	適宜
	超音波探傷試験	100（%）	AOQL2.5% 第4水準	適宜
上記以外	外観検査	100（%）	100（%）	適宜

○ 工事現場溶接部
・ 全ての完全溶込み溶接部を対象に第三者検査機関による超音波探傷試験・外観検査を行う。
・ 完全溶込み溶接以外の溶接部は外観検査（第三者・100%、監理者・適宜）とする。
○ マクロ試験
○ 浸透探傷試験（JIS Z2343）
○ 第三者検査機関は CIW 認定を取得した機関とする。

⑧ 錆止め塗装

○ 錆止め塗装を行わない範囲
・ 現場溶接を行う箇所に隣接する両側それぞれ 100（mm）以内、かつ、超音波探傷試験に支障をきたす範囲
・ 高力ボルト摩擦接合部の摩擦面
・ コンクリートに埋め込まれる部分及び接触する部分
・ 密閉となる内面
・ 外周部の柱・梁を除いた耐火被覆材を接着する部分
○ 素地ごしらえ
・ 見え掛り　［ ○ A 種　○ B 種　○ C 種 ］　・ 見え隠れ　［ ○ A 種　○ B 種　○ C 種 ］
○ 塗料種別

	種　別	規　格	名　称	種　類	適用範囲
○	A 種	JIS K5674	鉛・クロムフリーさび止めペイント	○ 1種　○ 2種	―
○	B 種	JIS K5621	一般用さび止めペイント	○ 1種　○ 2種	―

○ 塗装回数
・ 工場　2回　・ 現場　0回

⑨ 溶融亜鉛めっき工法

・ めっき付着量　550（g/m²）
・ 適用箇所　製作金物部分
・ 素地ごしらえ　［ ○ A 種　○ B 種　○ C 種 ］

⑩ 確認・検査項目

・ 書類確認　○ 製品自主検査記録　○ 鋼材規格証明
・ 立会い検査　○ 原寸検査　○ 仮付け検査
○ 仮組み検査　○ 製品検査
○ 建方検査　○ 本締め検査

7 その他

令第129条の2の3に関する事項

建築物に設ける建築設備にあっては、構造耐力上安全なものとして、以下の構造方法による

☑ 建築設備（昇降機を除く）、建築設備の支持構造部及び緊結金物は、腐食又は腐朽のおそれがないものとすること。
☑ 屋上から突出する水槽、煙突、冷却塔その他これらに類するものは、支持構造部又は建築物の構造耐力上主要な部分に、支持構造部は建築物の構造耐力上主要な部分に緊結すること。
☑ 煙突の屋上突出部の高さは、れんが造、石造、コンクリートブロック造又は無筋コンクリート造の場合は鉄製の支枠を設けたものを除き、90cm以下とすること。
☑ 煙突で屋内にある部分は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを5cm以上とした鉄筋コンクリート造又は厚さが25cm以上の無筋コンクリート造、れんが造、石造若しくはコンクリートブロック造とすること。
☑ 建築物に設ける給水、排水その他の配管設備は、
☑ 風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。
☑ 建築物の部分を貫通して配管する場合においては、当該貫通部分に配管スリーブを設ける等有効な管の損傷防止のための措置を講ずること。
☑ 管の伸縮その他の変形により当該管に損傷が生ずるおそれがある場合において、伸縮継手又は可撓継手を設ける等有効な損傷防止のための措置を講ずること。
☑ 管を支持し、又は固定する場合においては、つり金物又は防振ゴムを用いる等有効な地震その他の震動及び衝撃の緩和のための措置を講ずること。
☑ 法第20条第一号から第三号までの建築物に設ける屋上から突出する水槽、煙突その他これらに類するものにあっては、建設省告示第1389号により、風圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して構造耐力上安全なものとすること。
☑ 給湯設備は、支持構造部及び緊結金物を腐食又は腐朽のおそれがないものとするほか、
風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。
☑ 建築物に設ける昇降機にあっては、第129条の4及び第129条の5（これらの規定を第129条の12第2項において準用する場合を含む。）、129条の6第1号並びに第129条の8第1項の規定（第129条の3第2項第1号に掲げる昇降機にあっては、第129条の6第1号の規定を除く。）に適合すること。

工事名称	令和8年度（翌債）妙高戸隠連山国立公園妙高高原ビジターセンターエントランス改修工事						
工事場所	新潟県妙高市関川 笹ヶ峰駐車場北				図面名称	構造特記仕様書	
発注機関	中部環境局 信越自然環境事務所				縮　尺	－	
公園名称	妙高戸隠連山国立公園				図面番号	2S01	
検　査					設計者	名　称	（有）金箱構造設計事務所
						資格者氏名	金箱 温春
						登録番号	一級建築士 大臣登録　第122854号
						所在地	一級建築士事務所 東京都知事登録　第36591号

1 共通事項

1. 鉄筋の表示記号

呼び名	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32	D35	D38	D41
呼び径(d)	10	13	16	19	22	25	29	32	35	38	41
最外径(D1)	11	14	18	21	25	28	33	36	40	43	46
記 号	•	×	⌀	●	○	◉	⊗	◎	⊕	◈	⊗

2. 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔

(1) 鉄筋の最小かぶり厚さ

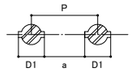
構造部位	最小かぶり厚さ	
	一般部 ()は屋外	土に接する部分
床スラブ、屋根スラブ、非耐力壁	30(40)(mm)	40(mm)
柱、梁、耐力壁	40(mm)	50(mm)
基礎、基礎梁、耐圧板	—	60(mm)
地下外壁、擁壁	40(mm)	60(mm)
煙 突	60(mm)	60(mm)



- 柱及び梁の主筋にD29以上を使用する場合、主筋のかぶり厚さが径の1.5倍以上となるように最小かぶり厚さを定める。
- 打増しコンクリートは、スラブは10(mm)、壁は20(mm)とする。
- 打増しコンクリートの厚さは、かぶり厚さには考慮しない。
- 杭基礎の場合、基礎フーチングの鉄筋のかぶり厚さは杭天端からとする。
- 貫通孔に接する鉄筋においても、かぶり厚さを確保すること。

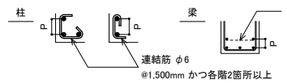
(2) 鉄筋の最小間隔とあき

- 鉄筋相互のあき a は下記のうち最大のものとする。
  (イ) a = 25(mm)
  (ロ) a = 1.25× 粗骨材最大寸法
  (ハ) a = 1.5×d(鉄筋の呼び径)



粗骨材の最大寸法	あきの最小値(mm)								
	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32	D35
20(mm)	25			29	33	38	44	48	53
25(mm)	31								

- 鉄筋の間隔 P = a + D1(鉄筋の最外径)
- 柱及び梁の主筋が二段筋以上の場合、下図により鉄筋相互のあきを確保する。

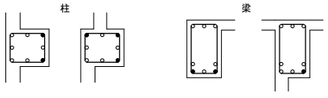


3. 鉄筋の折曲げ基準

(1) フック形状(末端部)

折曲げ角度	詳細 余長	折曲げ内法直径(D) SD295A、SD345 D16以下	SD295A、SD345 D19～D38	SD390 D19～D38	使用箇所
180°	d, D, ≧4d	3d 以上	4d 以上	5d 以上	・柱、梁の出隅部分の重ね継手 ・柱の四隅の柱頭 ・煙突の主筋 ・杭基礎のベース筋
135°	d, D, 10d以上	3d 以上	4d 以上	5d 以上	・フープ及びスターラップ ・スパイラル筋 ・壁筋末端部に使用するD10 及び D13 ・幅止め筋
90°	d, D, 8d以上	3d 以上	4d 以上	5d 以上	・T形、L形梁のスターラップに用いるキャップタイ ・スラブ筋、壁筋の末端部 ・幅止め筋

- 柱、梁の出隅部分とは、下図の●印の主筋とする。



(2) ベンド形状(中間部)

折曲げ角度	詳細	折曲げ内法直径(D) SD295A、SD345、SD390 D16以下	D19～D25	D29～D38	使用箇所
90° 以下	d, D	3d 以上	4d 以上	—	・フープ及びスターラップ ・スパイラル筋
	d, D	4d 以上 (5d 以上)	6d 以上	8d 以上	・その他の鉄筋 (スラブ筋、壁筋等)

- SD390は、使用箇所がその他の鉄筋の場合に( )内を適用する。

4. 継手及び定着

(1) 継手及び定着基準

方法		詳細	使用箇所
重ね継手 (*1)	フック有り	L1 L1 ≧0.5L1h / L1 L1	D16以下の鉄筋
	フック無し	L1 L1 ≧0.5L1 / L1 0.5L1	
ガス圧接継手		≧400mm, 圧接面, d1 H a e d2 L ・d2≦d1≦d2 + 5mm ・ふくらみの直径 : H≧1.4・d2 ・ふくらみの長さ : L≧1.1・d2 ・偏心量 : e≦d2×1/5 ・圧接面のずれ : a≦d2×1/4 ・ガス圧接後の曲げ加工は行わないこと。	D19～D32の鉄筋(柱、梁の主筋等)
特殊継手 (*2)	機械式継手	カップラー b, ≧400mmかつ(b+40)mm	特記による
溶接金網の重ね継手		応力伝達継手 ≧1節半かつ150mm / ひび割れ防止用継手 ≧1節かつ100mm	スラブ筋及び壁筋
直線定着(フック有り)		▽定着起点 L1、L2 l	
直線定着(フック無し)		▽定着起点 L1、L2 又は L3	
溶接金網の定着		スラブ ≧1節半かつ 150mm L3 L2 / 壁 L2 L2 溶接金網と等量の異形鉄筋	スラブ筋及び壁筋

- (*1) 重ね継手で、相互の鉄筋径が異なる場合の重ね継手長さ L1 は細い方の d による。重ね継手の長さL1は(2)定着の長さと同じ値とする。
- (*2) 特殊継手は、平成12年建設省告示第1463号「鉄筋の継手の構造方法を定める件」に適合するものとする。使用箇所は特記によることとし、工法は監理者の承諾を得ること。

(2) 定着長さ

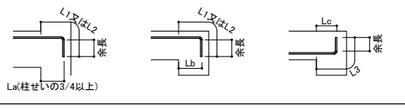
鉄筋種類	Fc (N/mm²)	フック無し L1	フック無し L2	フック無し L3 小梁	フック無し L3 スラブ	フック無し L3 片持小梁/片持スラブ	フック有り L1	フック有り L2
SD295A	18	45d	40d	20d	10dかつ150mm以上	25d	35d	30d
	21	40d	35d				30d	25d
	24	35d	30d				25d	20d
	27							
	30							
	33							
	36							
SD345	18	50d	40d	20d	10dかつ150mm以上	25d	35d	30d
	21	45d	35d				30d	25d
	24	40d	35d					
	27							
	30	35d	30d				25d	20d
	33							
	36							

- L3 : 小梁及びスラブの下端筋の直線定着の長さ。ただし基礎耐圧スラブ及びこれを受ける小梁は除く。
- フックあり定着の場合は、フック部分を含まない。また、中間部での折曲げは行わない。
- 軽量コンクリートの場合、上表の値に 5d を加える。
- 重ね継ぎ手、及び定着長さは、施工令第73条第2項による。

(3) 折曲げ定着

- 全長は(2)の定着長さ以上とする。
- 投影定着長さは右表のLaまたはLbまたはLcとする。
- 余長は8d以上とする。
- La : 梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ
- Lb : 小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ
- Lc : 小梁及び片持梁の下端筋の投影定着長さ
- 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。

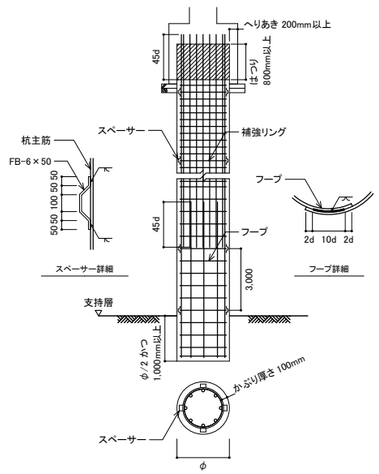
鉄筋種別	Fc (N/mm²)	La	Lb	Lc
SD295A	18	20d	15d	10d
	21以上	15d	15d	
SD345	18, 21	20d	20d	10d
	24, 27	20d	15d	
	30,33,36	15d	15d	



2 杭

1. 場所打ちコンクリート杭

- スペーサー : FB- 6 x 50 平面上に 4 ヶ所以上 @ 3,000
- 補強リング : FB- 9 x 65 @ 3,000 以下かつ 1 節につき 3 ヶ所以上
- 鉄筋のかぶり厚さは 100mm とする。
- 主筋の重ね継手およびフーチングへの定着長さは、45d 以上とする。
- フープは正しく円形に加工し、片面 10d 以上のフレアグルーブアーク溶接にて接合する。



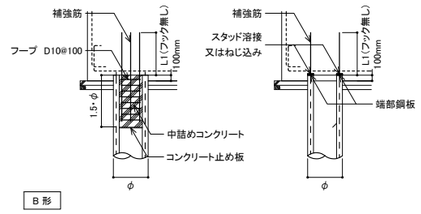
2. 既製杭

(1) PHC杭又はPRC杭

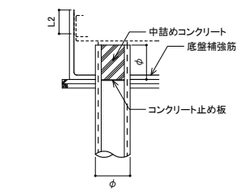
- 適用する工法、補強筋の径及び本数は構造図による。

A 形

- 補強筋にはフックをつけない。

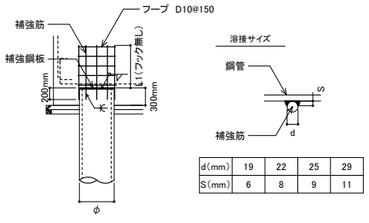


B 形



(2) 鋼管杭

- 補強筋の径及び本数は構造図による。



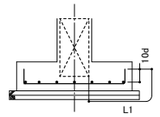
d(mm)	19	22	25	29
S(mm)	6	8	9	11

3 基 礎

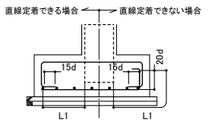
1. 基礎フーチングの納まり

(1) 独立基礎、連続基礎

A. はかま筋が不要な場合

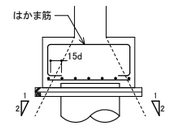


B. はかま筋が必要な場合

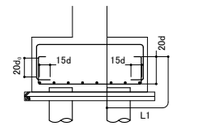


(2) 杭基礎

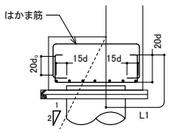
A. 一本杭の場合

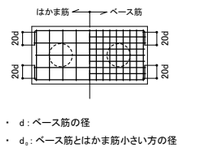


C. 二本杭以上の場合



B. 一本杭で偏心する場合

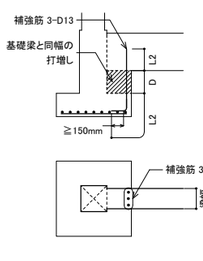




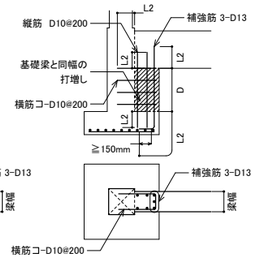
- d : ベース筋の径
- d_a : ベース筋とはかま筋小さい方の径

2. 基礎フーチングと基礎梁の接合部

(1) 0<D≦500 の場合

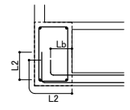


(2) 500<D≦1,000 の場合

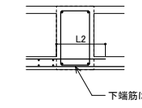


3. 耐圧スラブ(べた基礎)の納まり

(1) 最終端



(2) 連続端

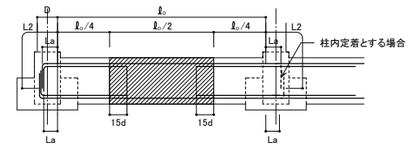


4 基礎梁

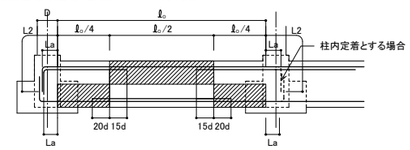
1. 継手位置、定着及び余長

- 主筋の継手位置は下図の ▨ 内とする。
- 基礎梁の連続端で柱に接する梁筋が同数の場合、主筋は柱をまたいで引き通す。
  柱をまたいで主筋を引き通すことができない場合は、柱内に定着する。
- 梁主筋ののみ込み長さは柱せいの3/4倍以上とする。

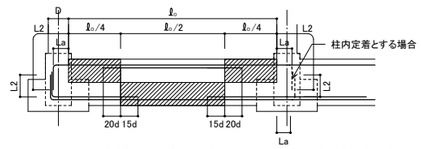
(1) 独立基礎、杭基礎で基礎梁にスラブが付かない場合



(2) 独立基礎、杭基礎で基礎梁にスラブが付く場合



(3) 連続基礎、べた基礎で地反力を受ける場合



L2hを確保できない場合は、4.継手及び定着(1)継手および定着基準による。

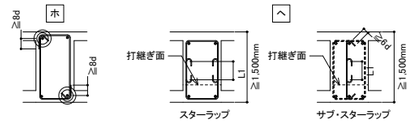
2. スターラップ

(1) 形状及びサブ・スターラップ(中子筋)

A. 梁せいが 1,500mm 未満の場合 → 6 . 2 -(1)、(2)による。

B. 梁せいが 1,500mm 以上の場合

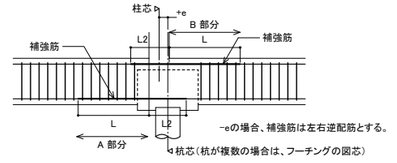
- 梁の上下にスラブが付く場合、ホおよびへの形状も可能とする。
- ホは、90°フック(◎印)側にスラブが付く場合にのみ可能とする。
- へで、重ね継手の代わりに特殊継手を用いる場合は監理者の承諾を得ること。



3. 腹筋及び幅止め筋 → 6 . 3 による。

4. 打増し補強筋 → 6 . 4 による。

5. 杭芯ずれに対する補強方法(例)



- 実際の補強方法は、監理者の指示による。
- e≦100mm の場合、補強は不要とする。
- 耐力壁付きの梁については、原則として補強は不要とする。
- 下表の範囲を超える場合は、監理者に確認を得ること。

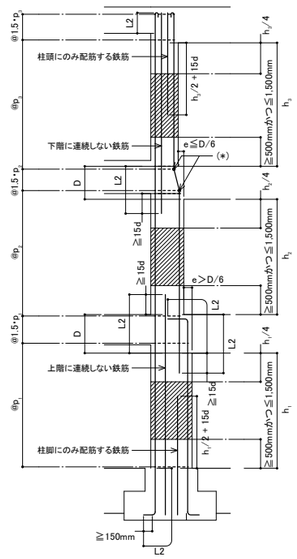
杭 本数	杭 径	偏心距離(mm)	A 部分 補強筋	A 部分 L(mm)	B 部分 補強筋	B 部分 L(mm)	せん断補強
		100<e≦200					
		200<e≦300					
		100<e≦200					
		200<e≦300					
		100<e≦200					
		200<e≦300					

工事名称	令和8年度(翌債)妙高戸隠連山国立公園妙高高原ビジターセンターエントランス改修工事						
工事場所	新潟県妙高市関川 笹ヶ峰駐車場北				図面名称	RC標準図(1)	
発注機関	中部環境局 信越自然環境事務所				縮 尺	–	
公園名称	妙高戸隠連山国立公園				図面番号	2S02	
検 査					設計者	名 称	(有)金箱構造設計事務所
						資格者氏名	金箱 温春
						登録番号	一級建築士 大臣登録 第122854号
						所 在 地	一級建築士事務所 東京都知事登録 第36591号

5 柱

1. 継手位置、定着及び余長、フープの割付け

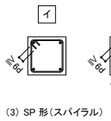
- 主筋の継手位置は下図の ▨ 内とする。
- 柱頭の定着長さ L2 が確保できない場合の定着方法は、構造図の特記による。
- 柱頭の主筋のうち出隅に位置するものには180°フックを設ける。
- ----- はフープの割付け基線（第一帯筋）を示し、梁上端筋の直上及び下端筋の直下に設ける。
- (*)e≦D/6 の場合、柱主筋の折曲げ基点は梁主筋との交点とする。フープは、一般部と同径、同材質のものを2本重ねる。



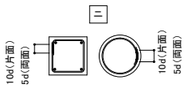
2. フープ

- フープの形状は構造図の特記による。特記がない場合はH 形とし、135°フックが困難な場合は W-1 形とする。
- フック及び継手位置は上下階で同一箇所に集中させず、交互にずらす。
- SP 形において、柱頭及び柱脚の端部は1.5巻き以上の添巻きを行う。

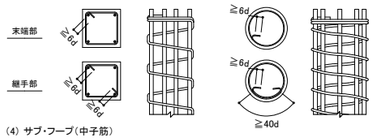
(1) H 形（フック先曲げ）



(2) W-1 形（溶接閉鎖）



(3) SP 形（スパイラル）

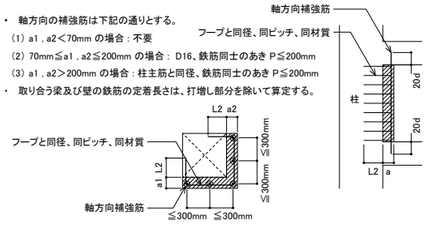


(4) サブ・フープ（中子筋）



3. 打増し補強筋

- 軸方向の補強筋は下記の通りとする。
  (1) a1 , a2＜70mm の場合：不要
  (2) 70mm≦a1 , a2≦200mm の場合： D16、鉄筋同士のあき P≦200mm
  (3) a1 , a2＞200mm の場合：柱主筋と同径、鉄筋同士のあき P≦200mm
- 取り合う梁及び壁の鉄筋の定着長さは、打増し部分を除いて算定する。

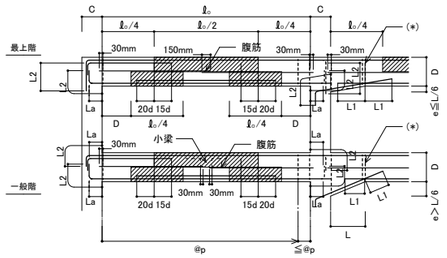


6 梁

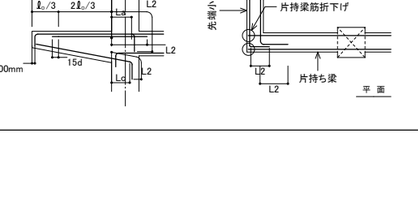
1. 継手位置、定着及び余長、スターラップの割付け

- 主筋の継手位置は下図の ▨ 内とする。
- 下端筋は上向き定着とする。やむを得ず下向き定着する場合は、監理者の承諾を得ること。
- 梁の連続端では、主筋は柱をまたいで引き通すことを原則とする。
  柱をまたいで主筋を引き通すことができない場合は、柱内に定着する。
  やむを得ない場合のみ、柱面から定着長さ L2 を確保して反対側の梁に定着する。
- 特記無き場合、梁主筋のみ込み長さは柱せいの3/4倍以上とする。
- ---- はスターラップの割付け基線を示し、第一スターラップは柱側面を基準に割り付ける。
- 特記無き場合、梁ハンチの傾斜は 1/4 とする。
- (*)ハンチの折曲げ基点には、一般部のスターラップと同径、同材質のものを2本重ねる。

(1) 大 梁

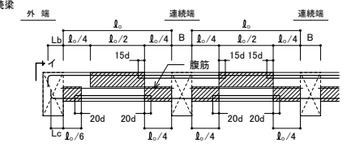


- 柱に取り付く両側の大梁に段差(e)がある場合の定着方法は下図による。

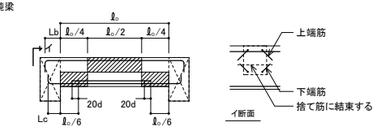


(2) 小 梁

- 連続梁



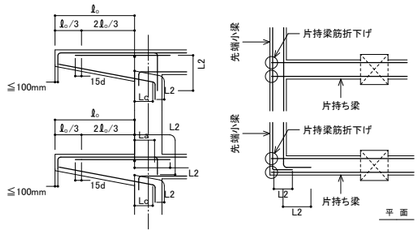
- 単純梁



- 大梁に取り付く両側の小梁に段差がある場合の定着方法は、大梁の場合に準ずる。

(3) 片持ち梁

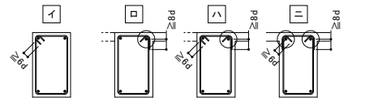
- 梁筋が引き通せない場合は、取り合い部材に定着する。
- 柱と取り合う場合、全数引き通せる場合においても、上端筋は2本以上を柱内定着とする。
- 柱内定着とする場合、梁主筋は柱の中心線を越えて曲げる。
- 上端筋の先端は下端筋位置まで折下げる。
- 先端小梁の終端部の主筋は、片持ち梁に水平定着とする。
- 先端小梁の連続端の主筋は、片持ち梁の先端を貫通する通し筋として良い。



2. スターラップ

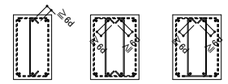
(1) 形 状

- 90°フック（○印）は、スラブ側にのみ設けて良い。それ以外は135°フックとする。
- イの135°フックの位置は交互とする。
- ロ～ニはスラブと同時にコンクリートを打ち込む場合に用いて良い。



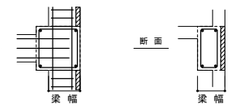
(2) サブ・スターラップ（中子筋）

- 末端は原則として135°フックとするが、スラブが付く側のみ90°フックとしても良い。



(3) 柱面と梁面が同一になる場合の納まり

- 柱主筋径だけスターラップ幅を狭めて加工する。



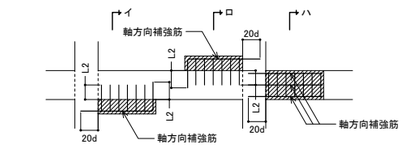
3. 腹筋及び幅止め筋

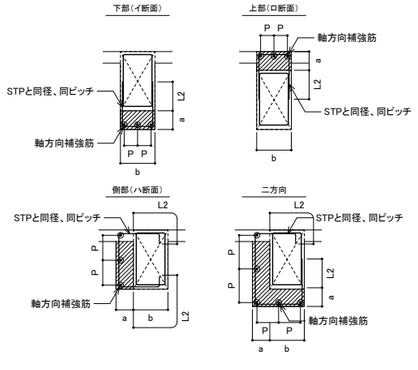
梁せい(mm)	段 数	腹 筋	幅止め筋
D＜600		不 要	
600≦D＜900	1	2－D10	D10@1,000mm
900≦D＜1,200	2	4－D10	
1,200≦D＜1,500	3	6－D10	
1,500≦D＜1,800	4	8－D13	

- 梁せいが上表を超える場合、梁せい 300mm ごとに1段(2-D13)を加える。
- 腹筋端部は、梁の第一スターラップから 30mm 程度つきだしてスターラップに結束する。

4. 打増し補強筋

- 軸方向の補強筋は下記の通りとする。
  (1) a＜70mm の場合：不要
  (2) 70mm≦a≦200mm の場合： D16、鉄筋同士のあき P≦150mm
  ただし、打増し部に耐力壁（耐震壁、土圧壁）が取付く場合で、壁筋がD19以上の場合は壁筋と同径以上とする。
  (3) a＞200mm の場合：梁主筋と同径、鉄筋同士のあき P≦150mm
- 梁の打増し部分に取り合う梁、壁、スラブの鉄筋の定着長さは打増し部分を除いて算定する。



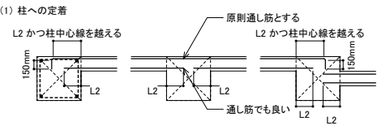


7 壁

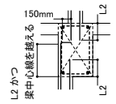
1. 継手及び定着

- 重ね継手長さは、耐力壁（耐震壁、土圧壁）はL1、その他はL2とし、定着長さはL2 とする。
- 幅止め筋は、縦横とも D10@1,000mm とする。

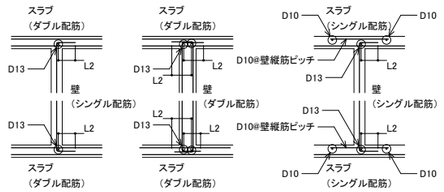
(1) 柱への定着



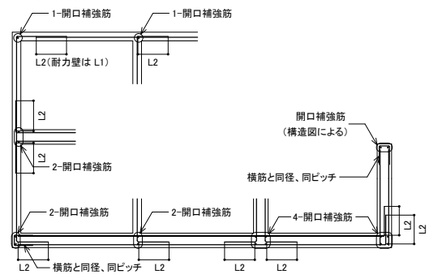
(2) 梁への定着



(3) スラブへの定着（非耐力壁）

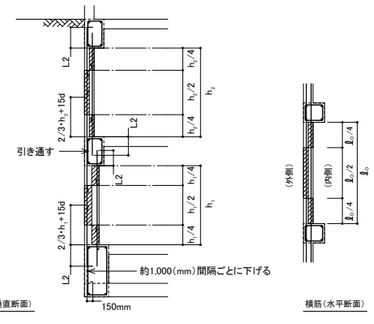


(4) 壁の交差部及び端部



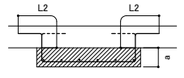
2. 地下外壁の継手及び定着

- 地下外壁の継手位置は下図の ▨ 内とする。
- 外側縦筋は基礎梁主筋の内側に納め、約1,000mmピッチごとに耐圧板上端もしくは基礎梁打継面まで下げる。中間階では通し配筋とする。



3. 打増し補強筋

(1) a＜50mm の場合：不要
(2) 50mm≦a＜200mm の場合：縦筋は D10@200、横筋は D10@横筋と同ピッチ
(3) 200mm≦a の場合：縦筋、横筋とも壁筋と同径、同ピッチ

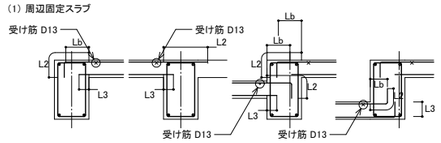


8 スラブ

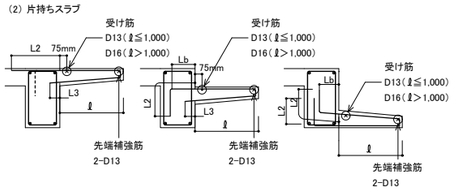
1. 定 着

- スラブ筋のかぶり厚さの確保は、バーサポート(@600 以下)によること。

(1) 周辺固定スラブ

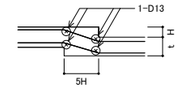


(2) 片持ちスラブ

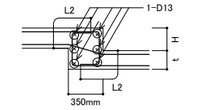


2. スラブ段差の納まり

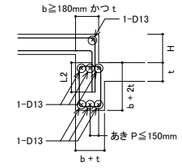
(1) H≦70mm の場合



(2) 70＜H≦150mmの場合



(3) 150＜H≦300mmの場合

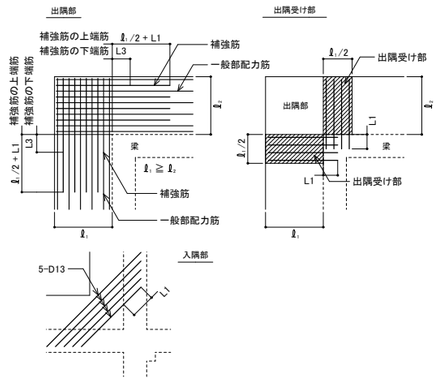


(4) 300mm＜H の場合：構造図の特記により小梁を設ける。

3. 出隅、入隅部分の補強

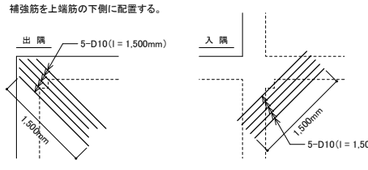
(1) 片持ちスラブ

- 出隅部補強筋はスラブ主筋と同径、同ピッチとし、ダブル配筋とする。
- 出隅受け部補強筋はスラブ主筋と同径@100mmピッチとし、ダブル配筋とする。



(2) 屋根スラブ

- 補強筋を上端筋の下側に配置する。



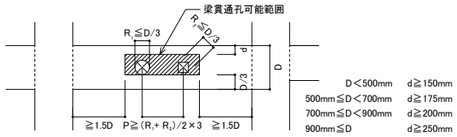
工事名称	令和8年度（翌債）妙高戸隠連山国立公園妙高高原ビジターセンターエントランス改修工事					
工事場所	新潟県妙高市関川 笹ヶ峰駐車場北			図面名称	RC標準図(2)	
発注機関	中部環境局 信越自然環境事務所			縮 尺	－	
公園名称	妙高戸隠連山国立公園			図面番号	2S03	
検 査				設計者	名 称	(有)金箱構造設計事務所
					資格者氏名	金箱 温春
					登録番号	一級建築士 大臣登録 第122854号
					所 在 地	一級建築士事務所 東京都知事登録 第36591号

9 開口補強

1. 梁貫通孔

(1) 貫通孔の径、位置、配置

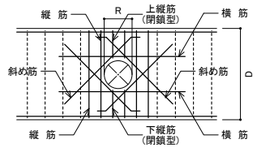
- 孔径は、梁せい D の 1/3 以下とする。孔が円形でない場合はこれの外接円とする。
- 孔の上下方向の位置の限度 d は下図の通りとする。
  梁中央下端は梁下端よりD/3の範囲に設けてはならない。
- 孔の左右方向の位置の限度は、柱及び直交する梁(小梁)面から原則として 1.5D 以上離す。
- 孔が並列する場合の中心間隔(水平距離)は、隣接する孔径の平均値の3倍以上とする。
  孔が円形でない場合は、孔の対角距離を用いることとする。



D＜500mm	d≧150mm
500mm≦D＜700mm	d≧175mm
700mm≦D＜900mm	d≧200mm
900mm≦D	d≧250mm

(2) 補強要領

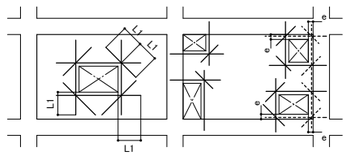
- 補強方法は、原則として下図の方法とする。これ以外の配筋要領とする場合、もしくは、既製品による補強を行う場合は監理者の承諾を得ること。
- 縦筋及び上下筋は、あばら筋の形に配筋する。
- 補強筋は、原則として主筋の内側とする。
- 孔径が梁せいの 1/10 以下かつ150mm 未満のものは、補強を省略する事ができる。
- 上下縦筋は閉鎖型とする。



記 号	貫通孔径 R(mm)	符号	斜め筋	縦 筋	横 筋	上縦筋 下縦筋	箇所数
H1	60	−	2-1-D16	2-1-D16	なし	なし	4
H2	−	−		2-2-D13			−
H3	−	−	4-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	−
H4	−	−	4-2-D16				−
H5	−	−	4-2-D16				−
H6	−	−	4-2-D19	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	−
H7	−	−	4-2-D22				−
H8	−	−	4-4-D25	4-2-D22	4-2-D22		−

2. 壁開口

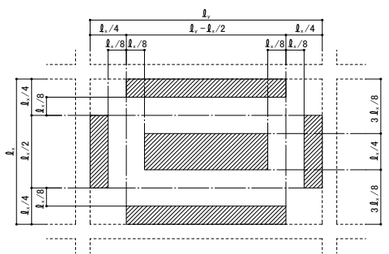
- 補強筋の径、本数は構造図による。
- 開口部の最大径が 200mm 以下で、鉄筋を緩やかに曲げることにより開口部を避けて配筋できる配筋できる場合は補強を省略できる。
- e≦200mm の場合、破線で示した補強筋は不要とする。



3. スラブ開口

(1) 開口の範囲

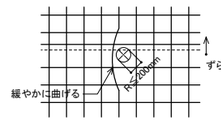
- スラブの開口可能範囲は、原則として下図の ▨ 以外の部分とする。
- 施工時に一時的に設ける開口(ダメ穴)は、原則として設けないこととするが、やむを得ず設ける場合は下図に準じて配置の計画をし、監理者の承諾を得ること。



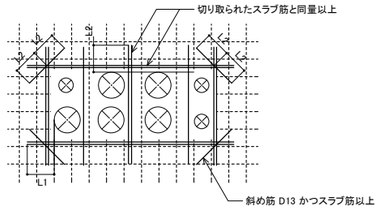
(2) 補強要領

A 開口部の最大径が 200mm 以下の場合

- 単独の開口(孔径の3倍以上離れている場合も含む)で、鉄筋を緩やかに曲げることで開口を避けて配筋できる場合は補強を省略できる。この場合、スラブ筋をずらしても良い。

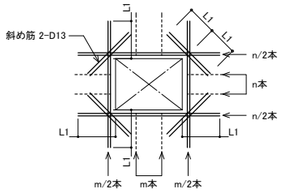


- 複数の開口を連続して設けた場合、開口群を一つの開口と見なして補強筋を設置する。



B 開口部の最大径が 700mm 以下の場合

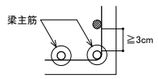
- 開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅角部に斜め方向に 2-D13 シングルを上下筋の内側に配筋する。



10 設備配管

1. 柱・梁

- 柱への打込みは行わないこと。コンセント・ボックスなどを設置する場合は柱断面を打増し、5．3 に従って補強筋を配筋すること。
- 梁に打込む場合は、事前に監理者の承諾を得ること。

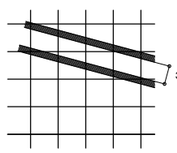


2. スラブ

- 上下スラブ筋の間に通す。
- スラブ筋と平行に沿わせないこと。
- スラブ内に配管が集中する場合は、事前に監理者に報告の上、協議すること。



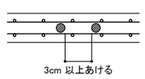
・上下スラブ筋の間に通す。



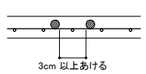
・スラブ筋に沿わせない。

3. 壁

- ダブル配筋の場合、壁筋の内側に通す。

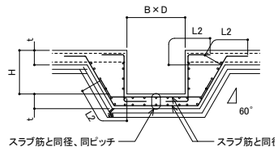


- シングル配筋の場合、壁の中央に通す。



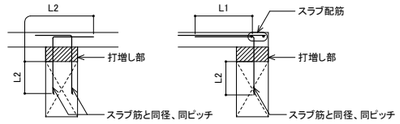
11 雑配筋詳細

1. 基礎スラブピット

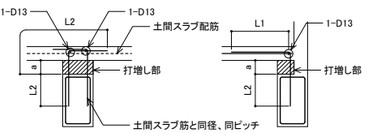


釜場記号	位 置		大きさ			スラブ厚
	軸	通 り	B(mm)	D(mm)	H(mm)	t(mm)

2. 置きスラブと基礎梁の接合(シアコネクター)

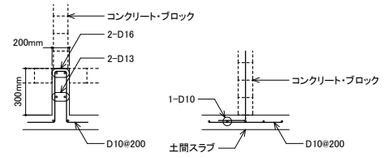


3. 土間スラブの補強



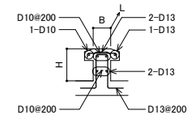
4. コンクリート・ブロック受け

- 水平、垂直とも同様とする。

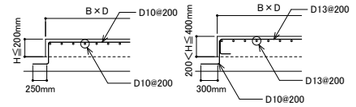


5. 機械基礎

A 形

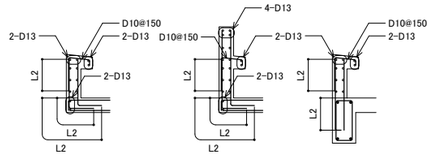


B 形

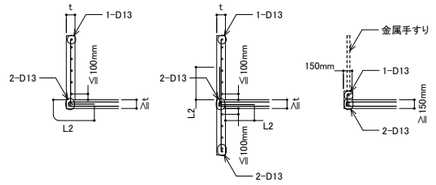


基礎記号	位 置		形 状	大きさ		
	軸	通 り		B(mm)	D，L(mm)	H(mm)

6. パラペット

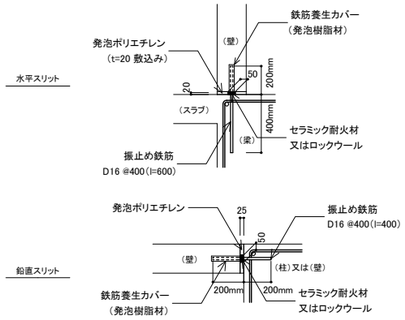


7. 手すり



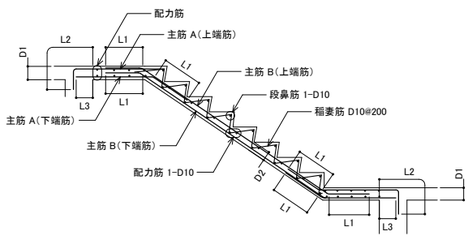
8. 耐震スリット(完全絶縁型)

- スリットの位置は構造図の特記による。

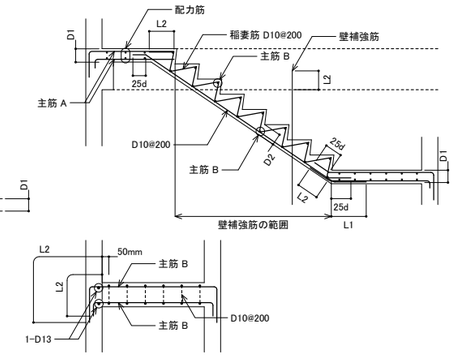


9 階 段

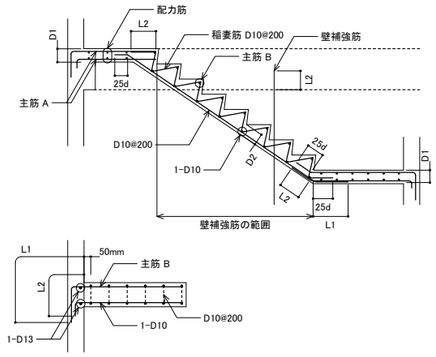
(1) 一方向スラブ階段



(2) 二辺固定スラブ階段



(3) 片持ちスラブ階段



階段記号	厚 さ		位 置	配 筋		
	D1(mm)	D2(mm)		主筋 A	主筋 B	配力筋
			上端筋			
			下端筋			
			上端筋			
			下端筋			
			上端筋			
			下端筋			

階段記号	厚 さ		配 筋			
	D1(mm)	D2(mm)	主筋 A	主筋 B	配力筋	壁補強筋

階段記号	厚 さ		配 筋			
	D1(mm)	D2(mm)	主筋 A	主筋 B	配力筋	壁補強筋

工事名称	令和8年度(翌債)妙高戸隠連山国立公園妙高高原ビジターセンターエントランス改修工事						
工事場所	新潟県妙高市関川 笹ヶ峰駐車場北				図面名称	RC標準図(3)	
発注機関	中部環境局 信越自然環境事務所				縮 尺	−	
公園名称	妙高戸隠連山国立公園				図面番号	2S04	
検 査					設計者	名 称	(有)金箱構造設計事務所
						資格者氏名	金箱 温春
						登録番号	一級建築士 大臣登録 第122854号
						所 在 地	一級建築士事務所 東京都知事登録 第36591号

8 木工事

① 一般事項

- 木材・接合金物等の製作にあたり製作要領書を作成して監理者の承諾を受けること。
- 工事に先立ち、必要な製作図と共に施工要領書を作成して監理者の承諾を受けること。
- 各工程の施工終了後はすみやかに施工記録を作成して監理者に提出すること。

② 木質材料

● 構造用製材
- 製材の日本農林規格（平成19年農林水産省告示1083号）第5条または第6条に準ずること。
- 乾燥の際背割りを行う。見えがかり部、相欠き部材、構造用合板の釘接合面には行わない。
- 含水率は平均含水率とし、15(%)以下(D15)とすること。
- 構造用製材の種類、強度、区分等は下表による。ただし、材の曲がりについては、下記にかかわらず目視等級1級相当とする。

樹 種	等級区分	種 別	等 級	使用箇所

● 構造用集成材、構造用単板積層材
- 集成材の日本農林規格（平成19年農林水産省告示第1152号）第5条および第6条、単板積層材の日本農林規格（平成20年農林水産省告示第701号）第4条に準ずること。
- JAS品質検査記録証明書を提出すること。
- ラミナは、全数グレーディングマシーン（MGFS）による機械的等級区分されたラミナ材（MSR材）を使用する。また、ラミナの縦継ぎは重直フィンガージョイントとし、フィンガー長さ18(mm)以上とする。ラミナの乾燥は高温高湿脱脂乾燥方式とし、含水率 15(%)以下とする。
- ホルムアルデヒド放散等級　F☆☆☆☆
- 構造用集成材、構造用単板積層材の種類、強度、区分等は下表による。

樹 種	等級区分	等 級	材面品質	使用箇所

● 構造用合板
- 合板の日本農林規格（平成20年農林水産省告示第1751号）第6条に準ずること。
- 接着等級　特類（屋外等、常時湿潤状態にある場所）、I 類（その他）
- 強度等級　2級 C-D
- ホルムアルデヒド放散等級　F☆☆☆☆

③ 接合材料

● 釘
- JIS A 5508 に適合すること。
- 材質　鉄（亜鉛メッキ処理したもの）またはステンレス
- 種類
  - N 釘
  - CN 釘　耐力壁、準耐力壁、床板、屋根板
  - ZN 釘　Cマーク、Zマーク金物
  - ZS 釘　Zマーク金物
  - ZF 釘
  - GNF 釘　プラスターボードによる耐力壁
  - SN 釘　シージングボードによる耐力壁

○ 木ネジ
- JIS B 1112（十文字孔付き木ネジ）もしくは JIS B 1135（十文字孔付き木ネジ（皿木ネジ、丸皿木ネジ））に適合すること。

● ボルト・ナット
- JIS B 1180 に適合する以下のいずれかを使用すること。ただし、せん断ボルトには必ず呼び径六角ボルトを使用する。
  - 呼び径六角ボルト
  - 有効径六角ボルト
  - 全ネジ六角ボルト

○ コーチボルト（ラグスクリュー）
- JIS G 3507 に適合すること。
- 材質　SWRCH10R

○ ドリフトピン
- 材質　SS400

● 座金
- JIS G 3131 に適合すること。
- ボルトに使用する座金は原則として丸座金とし、寸法は下記による

ボルト		M8	M10	M12	M16	M20	M24
引張ボルト	厚 さ	4.5	4.5	6.0	9.0	9.0	13.0
	直 径	45	60	70	90	120	140
せん断ボルト	厚 さ	3.2	3.2	3.2	4.5	6.0	6.0
	直 径	30	35	40	60	70	80

● アンカーボルト
- JIS G 3101 に適合すること。
- 材質　SS400 同等以上

● 既製金物
- 既製金物及び接合具は以下のいずれかを使用する。
  - （財）日本住宅・木材技術センター「軸組工法用金物規格」による Zマーク金物
  - （財）日本住宅・木材技術センター「3階建て木造住宅用金物規格」による Z、Cマーク金物
  - 上記金物と同等以上の性能を有する同等認定金物（Dマーク金物）又は、性能認定金物（Sマーク金物）を使用する場合は、監理者の承諾を得ること。

○ その他の金物
- JIS G 3101 等を準用すること。
- 材質　SS400 同等以上
- 防錆処置として溶融亜鉛メッキを施す。

④ 製作、加工

- 加工寸法は以下を標準とする。

● 構造用製材
- 断面寸法　±1.5(mm)以下
- 材長　在来軸組工法の継手・仕口の場合：±1.5(mm)以下
  ボルト接合の場合：±5.0(mm)以下
- 直角度　直角との歪み ±1/100 以下

● 集成材、構造用単板積層材
- 短辺　±1.5(mm)以下
- 長辺　±1.5(%)かつ±5.0(mm)以下
- 材長　±5.0(mm)以下

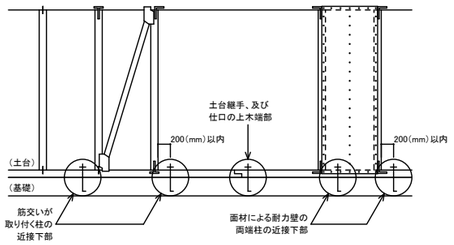
● 接合具の先孔径、深さ
- 木ネジ　針葉樹の場合、主材：0.6d、側材：0.8d
  広葉樹の場合、主材：0.8d、側材：1.0d
- ボルト　M12 以下：d±1.5(mm)以下
  M16 以上：d±2.0(mm)以下
- コーチボルト　2段空けを原則とする。胴部の先行孔は同寸、ネジ部は部材の樹種に応じて 40～75(%)とする。深さはネジ部と同寸とする。
- ドリフトピン　d±0(mm)

● 金物
- 幅、長さ　±1.0(mm)以下
- ボルト孔径　±1.0(mm)以下
- ボルト孔芯距離　±1.0(mm)以下

- 表面仕上げの程度は要求に応じた仕様とする。
- 面取りの程度は要求に応じた仕様とする。

⑤ 建方

- アンカーボルトの設置
  - ● 芯出しは、型板を用いて基準墨に正しく合わせ適切な機器等で正確に行う。
  - ● アンカーボルトは鉄筋等を用いて組み立て、適切な補助材で型枠等に固定してコンクリートの打設を行う。
  - ● アンカーボルトは二重ナットとする。
  - ● 土台の孔空けは、コンクリート打設後にボルトの通り芯からのずれを計測してから行う。ずれの許容値は±3.0(mm)とする。
  - ● 埋込み位置および埋込み長さは下記による。
    - 径、本数は構造図による。
    - 埋込み位置は構造図による。特記無き場合、耐力壁および土台の継手、仕口以外での埋込み間隔は 2.7(m)以内（3階建ての場合は 2.0(m)以内）とする。
    - 埋込み長さ　M12：250(mm)以上、M16：360(mm)以上



- 建方の精度基準は下記による。建方精度に不具合が生じた場合、速やかに監理者に報告して対応策を協議する。
  - ● 建物の倒れ　e≦H/2,500 + 10(mm)かつ e≦50(mm)
  - ● 建物の湾曲　e≦H/2,500(mm)かつ e≦25(mm)
  - ● 横架材の水平度　e≦L/700 + 5(mm)かつ e≦15(mm)
  - ● 柱据付け面の高さ及び位置
    - 高さのずれ　基準高さから±3.0(mm)以下
    - 通り芯からのずれ　±3.0(mm)以下
    - 階高　±5.0(mm)以下

- 確認・検査項目
  - 書類確認　● 施工図（プレカット図を含む）
    - ● 材料規格証明書
    - ● 輸送計画書
    - ● 建方計画書
  - 立会い検査　● アンカーボルト施工時検査
    - ● 接合部金物施工時検査
    - ○ 地組み時検査
    - ● 建方検査（軸組、耐力壁等の施工完了時）

⑥ 接合

● 釘接合
- 釘は材の繊維に対して乱に打ち、割れを生じないように間隔を大きくとる。
- 釘の長さは、原則として材厚の2.5倍以上とする。
- 1箇所の釘の本数は2本以上とする。
- 釘に錆が生じる恐れがある場合は、適切な防錆処理を施す。
- 自動釘打ち機を使用する場合は、面材に釘がめり込まないようにする。
- 構造用面材を耐力壁とする場合の釘打ち方法は、昭和56年建設省告示第1100号による。
- 構造耐力上主要な部分において、釘を引抜き方向に抵抗させない。
- 小口面に打たれた釘は、引抜き方向に抵抗させることはできない。

○ ホネジ接合
- ねじ込みには適切な道具を使用し、ハンマーなどで打ち込まないこと。
- 構造耐力上主要な部分において、ホネジを引抜き方向に抵抗させない。
- 小口面に打たれた木ネジは、引抜き方向に抵抗させることはできない。

● ボルト接合
- 締付けに先立ち、ボルトの長さ・材質・呼び径・座金等が施工箇所に適したものであることを確認する。
- ボルト接合部付近に節・目切れなどの欠点がある場合は、ボルト本数を適切に増加する。
- ボルトの締付けは座金が部材へめり込む程度とし、めり込み音が発生した時点で終了する。
- 締付けを完了した引張ボルトは、ねじ部がナットから2山以上突き出ていることを確認する。
- 座金のめり込みの程度及びねじ山の出を、目視により確認する。
- 一度締め付けたボルトについても、工事期間中の木材の乾燥収縮等によるボルトの緩みをチェックし、緩んだものについては再度締直しを行うこと。

○ コーチボルト（ラグスクリュー）接合
- コーチボルトの配置間隔、縁距離、端距離、使用する座金は同じ胴部径のボルトに準ずる。
- 先孔にレンチなどで回しながら挿入し、ハンマーなどで打ち込んでではならない。
- 構造耐力上主要な部分において、コーチボルトを引抜き方向に抵抗させない。

● ドリフトピン接合
- ボルトやコーチボルトを併用し、ドリフトピンの変形にともなう部材の開きを防止する。
- 先孔に密着させる。
- 一度締め付けた併用ボルトについても、木材の収縮によるボルトの緩みをチェックし、緩んだものについては再度締め直しを行う。

○ ジベル接合
- 木部材は、接合部付近の割れ、節、目切れなどの欠点に注意し、彫込み、打ち込みまたは圧入に際して割れを生じないよう、ジベルの種類に応じた断面と余長をもたせる。
- 接合材は十分圧着させる。木材の収縮によるボルトの緩みをチェックし、緩んだものについては再度締め直しを行う。

○ 接着接合
- 接合部の耐力は、使用材料および使用方法に適した接着性能の試験を行い確認する。
- 接着剤を用いた接合を行う手順は、接着剤製造業者の推奨する接着仕様に従うとし、実験によって接合部に要求される耐力と耐久性が立証された場合、その作業条件を標準とする。

● 既製金物の接合
- 羽子板ボルト、ひら金物、短冊金物、かね折り金物および箱金物などの取付けは、それぞれの仕様に基づき、接合両材の間が密着するように締め付ける。

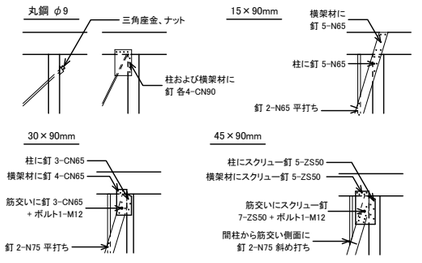
⑦ 耐久性（防腐・防蟻・耐候処理）

- 構造耐力上主要な部分である柱、筋かい及び土台のうち、地面から1m以内の部分には、有効な防腐措置を講ずるとともに必要に応じて、しろありその他の虫による害を防ぐための措置を講じる。
- 木材の防腐・防蟻処理は下記のいずれかによる。
  - ○ 高耐久材の使用（製材の心材、心持ち材または集成材とする）
  - ● 工場処理（現場の加工、切断、穿孔箇所等は、現場処理に準じる）
    - 処理剤　● JAS保存処理剤　[○ K2　● K3　○ K4]
      ○ AQ認証材保存処理剤　[○ 1 種　○ 2 種　○ 3 種]
  - ● 現場処理（給排水用塩化ビニル管に接する部分は、管を保護する）
    - 処理方法　[● 塗布　○ 吹付け　○ 浸漬]
    - 日本しろあり対策協会または日本木材保存協会の認定品とする。
- 土壌処理は下記のいずれかによる。
  - ○ 防蟻薬剤による処理
    - 日本しろあり対策協会または日本木材保存協会認定品、あるいはこれと同等以上の効力を有するものとする。
  - ● 防蟻薬剤による処理と同等以上の対策
    - 対策方法　べた基礎
  - ○ 防蟻処理の省略（北海道、東北地方、北陸地方）

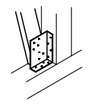
⑧ 耐力壁の施工方法

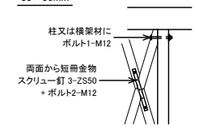
○ 筋交い
- 筋交い端部の接合は、平成12年建設省告示第1460号例示仕様または同等認定品とする。
- 筋交いが間柱と取合う部分は筋交いを通し、間柱を筋交いの厚さだけ欠き取るか分割する。
- たすき掛け筋交いの交差部は、
  - 幅90(mm)未満の場合、筋交い同士をずらして双方を通して交差部にN75釘両面打ち
  - 幅 90(mm)以上の場合、一方を通して他方は筋交い当たり傾ぎ大入れ、両面から短冊金物 スクリュー釘(3-ZS50)+ ボルト(2-M12)止め

(1) 告示第1460号例示仕様



(2) 同等認定品
- 筋交いが直交する場合や引寄せ金物と干渉する場合はボックス型を使用する。

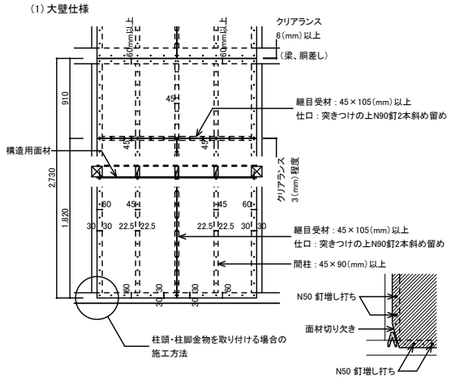




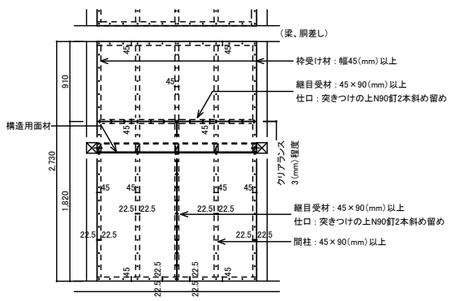
● 構造用面材
- 構造用面材は 3'×6'版 縦、横貼りを基本とする。
- 構造用面材の継手は突きつけ継ぎとし、継目下に所定の受け材を設ける。
  継目のクリアランス幅は3(mm)程度とする。
- 間柱および胴縁の断面寸法は、45×90(mm)以上とする。
- 構造用面材は、釘で構造部材に確実に留め付ける。
  釘打ち間隔および釘の種類は、面材の種類に応じて下表の通りとする。

	構造用面材	材料規格	最小厚さ	釘の種類	間 隔
●	構造用合板	JAS 15-233	12(mm)	N50、CN50	150(mm)
○	パーティクルボード	JIS A 5908	12(mm)		
○	構造用パネル	JAS 62-360	—		
○	ハードボード	JIS A 5905	5(mm)		
○	硬質木片セメント板	JIS A 5404	12(mm)		
○	プラスターボード	JIS A 6901	12(mm)	GNF40、GNC40	150(mm)
○	シージングボード	JIS A 5905	12(mm)	SN40	100(mm)

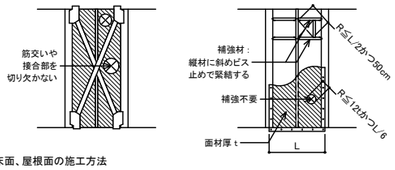
(1) 大壁仕様



(2) 真壁仕様
- 幅45(mm)以上の枠受材を、N90釘もしくはコーススレッドビス（L= 120mm）を用いて釘打ち間隔 300(mm)で柱、梁、胴差し等に固定する。

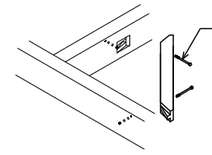


● 耐力壁の小開口
- 筋交い耐力壁
- 面材耐力壁



⑨ 床面、屋根面の施工方法

○ 火打ち
- はり、胴差し、桁等との仕口は傾ぎ大入れとし、六角ボルト締めとする。ただし、横架材の上端もしくは下端に取り付ける場合は渡り腮掛けとし、六角ボルト締めとする。
- 鋼製火打ちは、Z、Cマーク同等認定品を使用すること。

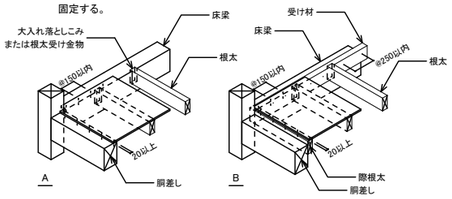


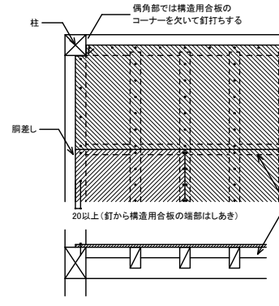
● 構造用面材
- 床下地板に構造用面材を用いて、火打ちを省略した剛床とする場合に適用する。
- 床下地板の大きさは 3'×6'版とし、こま切れしたものは使用しない。
- 構造用合板の長手方向を根太と直交させ、かつ、千鳥ばりとする。継手は根太上で突きつけ継ぎとし、継目下に断面寸法45×45(mm)以上の受け材を設ける。
- 柱と床ばり・胴差し同士もしくははりと胴差しの仕口は、金物、ボルトにより緊結補強する。
- 構造用面材は、釘で構造部材に確実に留め付ける。釘打ち間隔および釘の種類は面材の種類に応じて下表の通りとする。

	構造用面材	材料規格	最小厚さ	釘の種類	間 隔
●	構造用合板	JAS 15-233	12(mm)	N50、CN50	150(mm)
○	パーティクルボード	JIS A 5908	15(mm)		
○	構造用パネル	JAS 62-360	—		

A. 根太とはり、胴差しの上端高さが同じ場合
- 根太間隔は500(mm)以下とする。
- 根太は床梁、胴差に大入れ落しこみN75釘2本を斜め打ちとするか、根太受け金物等を用いて床梁、胴差に留めつける。
- 構造用面材は、はり、胴差しに20(mm)以上乗せて釘を平打ちして直貼りする。
- 隅角部では柱があるため構造用合板のコーナー部を欠いて釘打ちする。

B. 根太とはり、胴差しの上端高さが異なる場合
- 根太間隔は300(mm)以下とする。
- はり、胴差しに直交する根太は渡り腮掛けとし、N75釘2本を斜め打ちとする。
- はり、胴差しの際に、際根太または根太と同寸以上の受け材をN90釘を間隔250(mm)で千鳥に平打ちして添えつける。
- 構造用面材は、際根太または受け材に20(mm)以上乗せて釘を平打ちして四周辺を固定する。





C. 根太を用いず直接、はり、胴差しに留め付ける場合
- 床下地板は構造用合板 24(mm)以上を使用する。
- はりまたは胴差しへN75釘を間隔150(mm)以下で平打ちし、四周辺を固定する。

工事名称	令和8年度（翌債）妙高戸隠連山国立公園妙高高原ビジターセンターエントランス改修工事		
工事場所	新潟県妙高市関川 笹ヶ峰駐車場北	図面名称	木標準図(1)
発注機関	中部環境局 信越自然環境事務所	縮 尺	－
公園名称	妙高戸隠連山国立公園	図面番号	2S05
検 査		設計者 名 称	(有)金箱構造設計事務所
		資格者氏名	金箱 温春
		登録番号	一級建築士 大臣登録 第122854号
		所 在 地	一級建築士事務所 東京都知事登録 第36591号

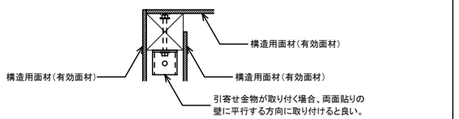
● 大引、床束による床組み

- 大引きの断面寸法は、90×90(mm)を標準とする。
- 大引きと土台の仕口は、大入れ蟻掛け、腰掛け、または乗せ掛けとし、いずれもN75釘2本斜め打ちとする。
- 大引きと柱の仕口は、添木を柱に取り付けたのち乗せ掛けとするか、柱に大入れとする。いずれもN75釘2本斜め打ちとする。
- 床束の断面寸法は、90×90(mm)を標準とする。
- 床束と大引きの仕口は、突き付けにしてN75釘を斜め打ちの上、かすがい打ちとする。
- 床束の下部は、束石に突き付けとし、根がらみ貫を添え付け釘打ちとする。
- プラスチックまたは鋼製束とする場合は、特記による。

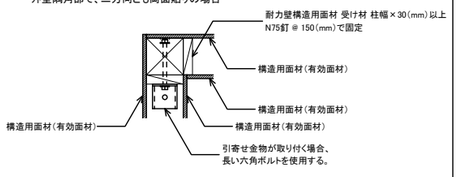
⑩ 耐力壁および床面の納まり

(1) 面材貼り耐力壁交差部の納まり(平面)

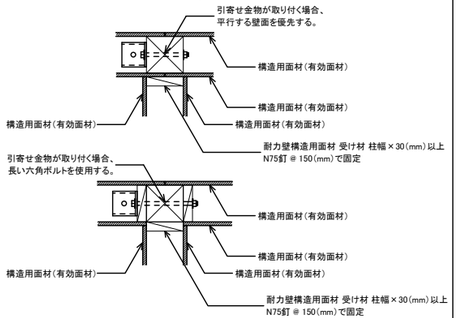
- 外壁隅角部で、一方が両面貼り、他方が片面貼りの場合



- 外壁隅角部で、二方向とも両面貼りの場合

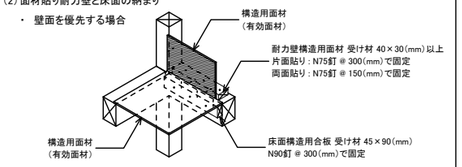


- 外壁T字部で、二方向とも両面貼りの場合

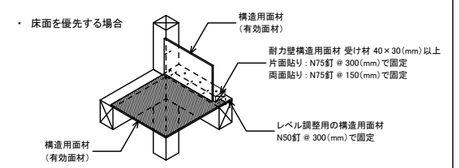


(2) 面材貼り耐力壁と床面の納まり

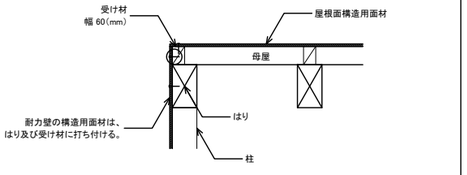
- 壁面を優先する場合



- 床面を優先する場合



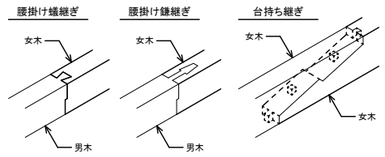
(3) 面材貼り耐力壁と屋根面の納まり(母屋とはりの上端高さが異なる場合)



⑪ 在来軸組工法接合部の標準仕様

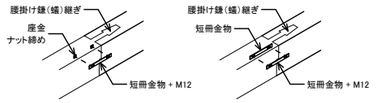
(1) 継 手

A. 曲げ応力や引張力を負担しない継手

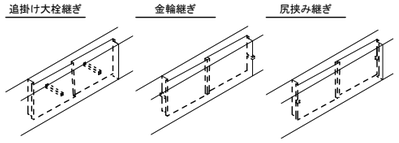


B. 曲げ応力や引張力を負担する継手

- 金物を使用する場合



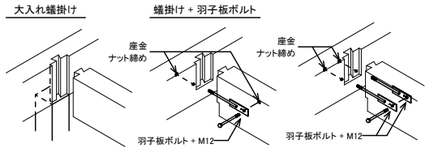
- 金物を使用しない場合



(2) 横架材同士の仕口

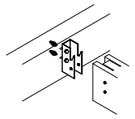
A. (大入れ)蟻掛け

- 男木せいが女木の2/3以下か仕口直下に柱がある場合は、大入れ蟻掛けとしてよい。
- 上記以外の場合は、男木せいの2/3程度の嵌をかけて、羽子板ボルトを併用する。



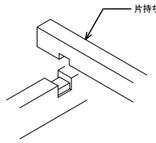
B. 梁受け金物

- Z、Cマーク同等認定品を使用し、適用箇所は特記による。



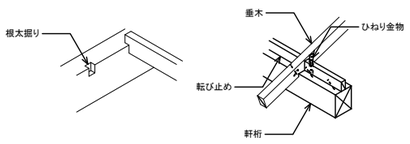
C. 渡り腮掛け

- 片持ち梁とする場合は、レベル差を設けて渡り腮掛けとする。
- 羽子板ボルト等を併用すること。



D. 根太、垂木と横架材

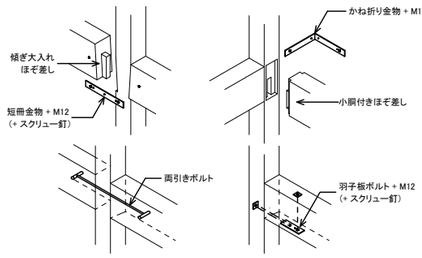
- 落とし込み根太:大入れ、根太掛け + 斜め釘、根太受け金物
- 半欠き根太:横架材に大入れ腮掛け+斜め釘
- 転ばし根太(根太が正角断面の場合):横架材に脳天釘止め
  転ばし根太(根太が縦長角断面の場合):斜め釘2本 + 転び止め
- 垂木:横架材に垂木道を掘り、転ばし根太と同様に止める。
- 垂木には、風の負圧に対する補強としてひねり金物等を取り付ける。



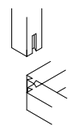
(3) 柱と横架材の仕口

A. 柱通しの場合

- 小屋付きほぞ差し、傾ぎ大入れほぞ差し、梁受け金物のいずれかとする。
  - 梁受け金物以外の場合は、短冊金物やかね折り金物等を併用すること。
  - 梁受け金物は、Z、Cマーク同等認定品を使用すること。
- 土台と柱の接合部は、柱勝ちの場合は落とし蟻とする。

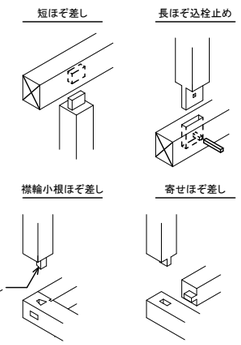


落とし蟻(柱勝ち)



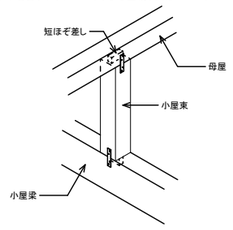
B. 横架材通しの場合

- 柱の上下端は短ほぞ差し又は長ほぞ込栓止めとする。
- 土台同士は襟輪小根ほぞ差しまたは寄せほぞ差し、柱脚部は扇ほぞ差し又は寄せほぞ差しとする。
- 柱頭・柱脚接合部金物は、平成12年建設省告示第1460号の例示仕様またはZ、Cマーク同等認定品とする。告示の例示仕様は右表による。



C. 小屋束の上下端

- 短ほぞ差しまたは長ほぞ差し込み栓止めとする。
  短ほぞ差しの場合、かすがい2本、ひら金物、山形プレートのいずれかで補強する。



D. 間柱と横架材

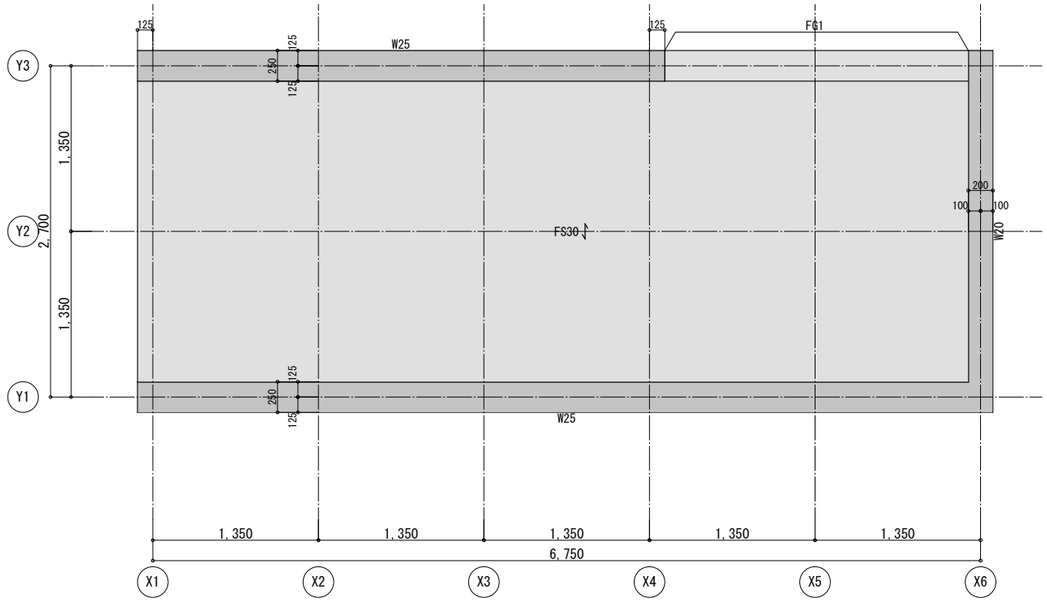
- 上部ほぞ差し、下部突き付け + N75釘2本斜め打ち
- 上部大れ + N75釘2本斜め打ち、下部突き付け + N75釘2本斜め打ち
- 上部、下部とも深さ3(mm)程度大入れ + N75釘2本斜め打ち

符号	は		に	
耐力	5.07(kN)	5.88(kN)	7.5(kN)	
名称	かど金物(T字型金物)	かど金物(V字型金物、山形金物)	羽子板ボルト(釘なし)	短冊金物(釘なし)
詳細	かど金物 CP-T 太め釘 ZN65×10 2材の接合面が釘孔間隔の中心となるように取り付ける。 ひら金物(SM-40) 太め釘 ZN65×12本 横架材の上下管柱の接合金物が「は」で、横架材のせい(D)が120mm以下の場合、ひら金物(SM-40)で上下の管柱を緊結する。	縦目受材:45×90(mm)以上 仕口:突きつけの上N90釘2本斜め留め かど金物 VP 太め釘 ZN90×8 中心線と木材の接合面を一致させる。 太め釘ZN90は材が割れやすいため、施工時には下孔を空けておく。 背割りがある場合、上下逆に用いる。	羽子板ボルト SB-F2、SB-E2 六角ボルト 1-M12 胴差しのせいが大きく施工が困難な場合は、両引き羽子板ボルト(Zマーク表示金物同等認定品)を使用する。 SB-F2 SB-E2 六角ボルト 1-M12 六角ボルト 1-M12 F2(フラット)タイプで、ボルト孔が材に近接して施工性が悪い場合や角座金が部材に干渉する場合は、E2(腰高)タイプとする。	短冊金物 S(釘なし) 六角ボルト 2-M12 柱の小口からM12の孔芯までの距離が90mm以上となるものを使用する。 胴差しのせいが大きく施工が困難な場合、もしくは、構造用面材にボルト頭が干渉する場合は、両引き羽子板ボルト(Zマーク表示金物同等認定品)を使用する。 六角ボルト 1-M12 両引きボルト M12 六角ボルト 1-M12

符号	ほ		へ	と
耐力	8.5(kN)		10.0(kN)	15.0(kN)
名称	羽子板ボルト(釘あり)	短冊金物(釘あり)	10kN 引寄せ金物	15kN 引寄せ金物
詳細	羽子板ボルト SB-F、SB-E 六角ボルト 1-M12 スクリュー釘 ZS50×1 胴差しのせいが大きく施工が困難な場合は、両引き羽子板ボルト(Zマーク表示金物同等認定品)を使用する。 SB-F SB-E 六角ボルト 1-M12 六角ボルト 1-M12 F(フラット)タイプで、ボルト孔が材に近接して施工性が悪い場合や角座金が部材に干渉する場合は、E(腰高)タイプとする。	短冊金物 S(釘あり) 六角ボルト 2-M12 スクリュー釘 ZS50×2 柱の小口からM12の孔芯までの距離が90mm以上となるものを使用する。 胴差しのせいが大きく施工が困難な場合、もしくは、構造用面材にボルト頭が干渉する場合は、両引き羽子板ボルト(Zマーク表示金物同等認定品)を使用する。 六角ボルト 1-M12 両引きボルト M12 六角ボルト 1-M12	引寄せ金物 HD-B10 六角ボルト 2-M12 座金付きボルト M16W (*) 図はHD-Bタイプを示すが、以下のいずれを使用しても良い。接合具は下記の通りとする。 □ HD-B10(幅広ボルト) 六角ボルト 2-M12 □ HD-N10(幅広釘) 太め釘 ZN90×10 □ S-HD10(細身ボルト) 六角ボルト 2-M12 (*)アンカーボルト 1-M16 で基礎と緊結しても良い。	引寄せ金物 HD-B15 六角ボルト 3-M12 アンカーボルト 1-M16 図はHD-Bタイプを示すが、以下のいずれを使用しても良い。接合具は下記の通りとする。 □ HD-B15(幅広ボルト) 六角ボルト 3-M12 □ HD-N15(幅広釘) 太め釘 ZN90×16 □ S-HD15(細身ボルト) 六角ボルト 3-M12

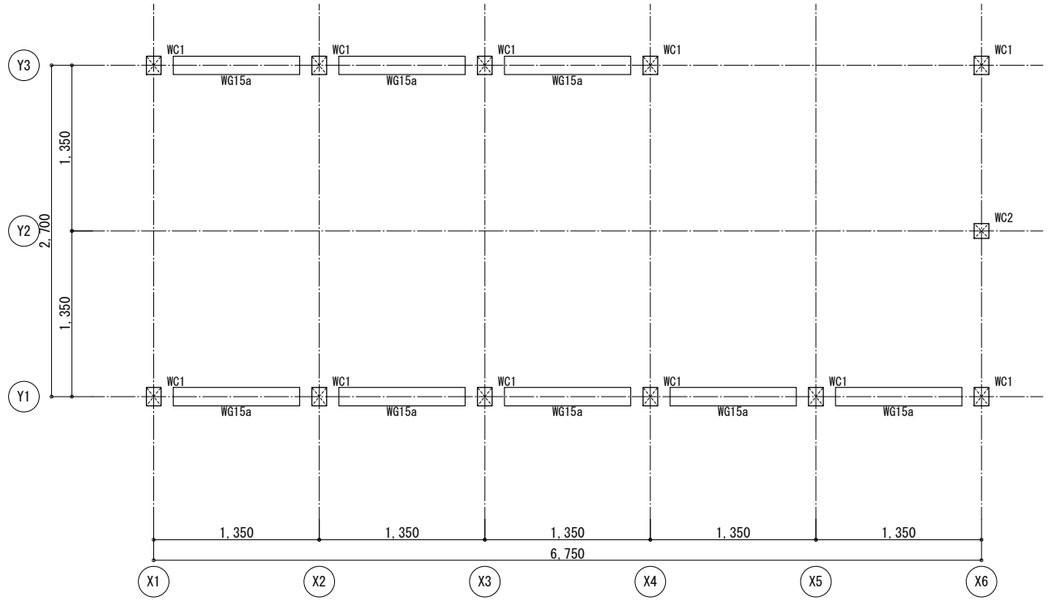
符号	ち	り	ぬ	る
耐力	20.0(kN)	25.0(kN)	30.0(kN)	40.0(kN)
名称	20kN 引寄せ金物	25kN 引寄せ金物	15kN 引寄せ金物 x 2	20kN 引寄せ金物 x 2
詳細	引寄せ金物 HD-B20 六角ボルト 4-M12 アンカーボルト 1-M16 図はHD-Bタイプを示すが、以下のいずれを使用しても良い。接合具は下記の通りとする。 □ HD-B20(幅広ボルト) 六角ボルト 4-M12 □ HD-N20(幅広釘) 太め釘 ZN90×20 □ S-HD20(細身ボルト) 六角ボルト 4-M12	引寄せ金物 HD-B25 六角ボルト 5-M12 アンカーボルト 1-M16 図はHD-Bタイプを示すが、以下のいずれを使用しても良い。接合具は下記の通りとする。 □ HD-B25(幅広ボルト) 六角ボルト 5-M12 □ HD-N25(幅広釘) 太め釘 ZN90×26 □ S-HD25(細身ボルト) 六角ボルト 5-M12	□ 引寄せ金物が正対する場合 接合具を共有するように、高さを揃える。 □ 引寄せ金物が直交する場合 接合具が干渉しないように、高さを 45mm ずらせる。	

工事名称	令和8年度(翌債)中部環境局妙高戸隠連山国立公園妙高高原ビジターセンターエントランス改修工事						
工事場所	新潟県妙高市関川 笹ヶ峰駐車場北				図面名称	木標準図(2)	
発注機関	中部環境局 信越自然環境事務所				縮尺	–	
公園名称	妙高戸隠連山国立公園				図面番号	2S06	
検査					設計者	名称	(有)金箱構造設計事務所
						資格者氏名	金箱 温春
						登録番号	一級建築士 大臣登録 第122854号
						所在地	一級建築士事務所 東京都知事登録 第36591号



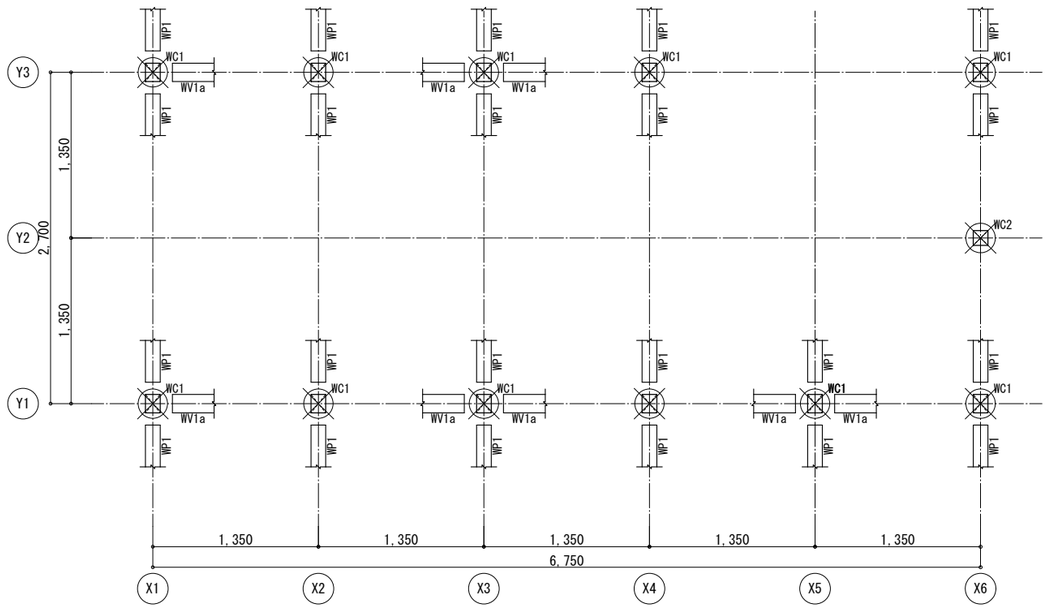
RC造伏図

・基礎下端 = 基礎梁下端 = SGL − 600
・SL = SGL + 10
・外周部のRC壁の上端レベルは SGL + 1,600 とする。



木造伏図(1)

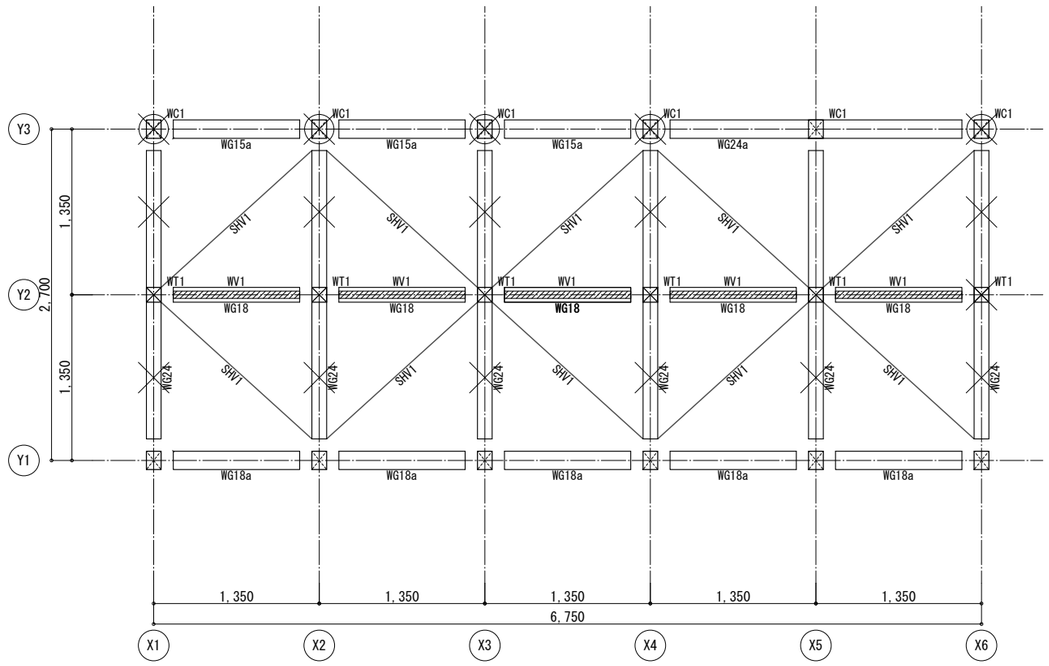
・梁下端レベルは SGL + 1,750 とする。



木造伏図(2)

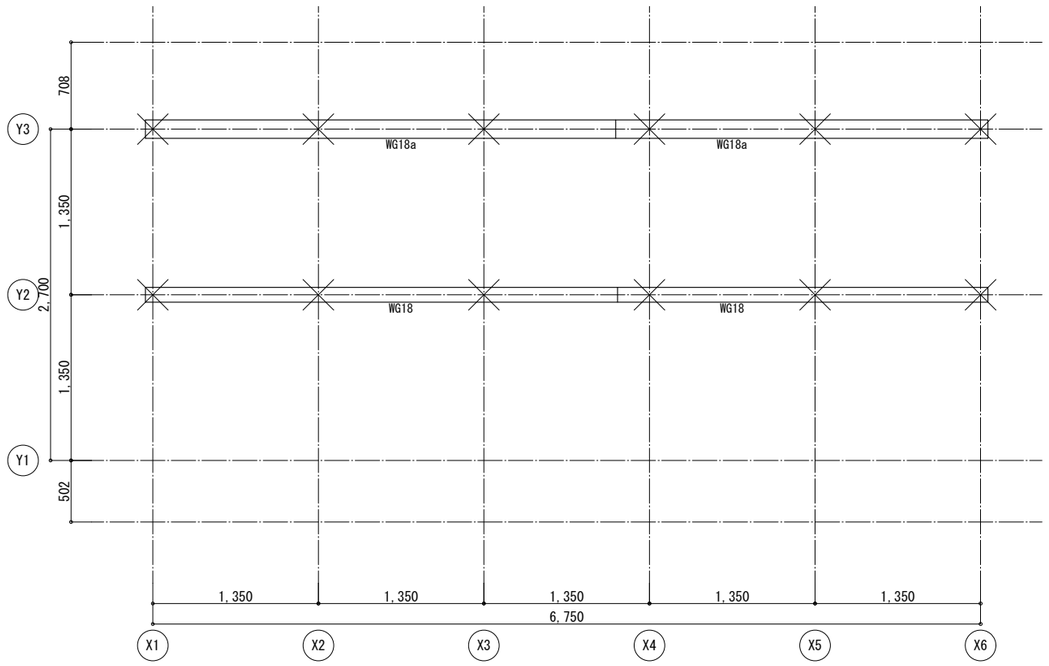
・方杖WP1の下端レベルは SGL + 1,750 とする。
・ ⊗ は通し柱位置を示す。

工事名称	令和8年度(翌債)妙高戸隠連山国立公園妙高高原ビジターセンターエントランス改修工事		
工事場所	新潟県妙高市関川2248?4	図面名称	妙高VC庇 伏図(1)
発注機関	中部環境局 信越自然環境事務所	縮　尺	1／50(A3)
公園名称	妙高戸隠連山国立公園	図面番号	2S07
検　査		設計者	名　称：(有)金箱構造設計事務所
			資格者氏名：金箱 温春
			登録番号：一級建築士 大臣登録 第122854号
			所在地：一級建築士事務所 東京都知事登録 第36591号



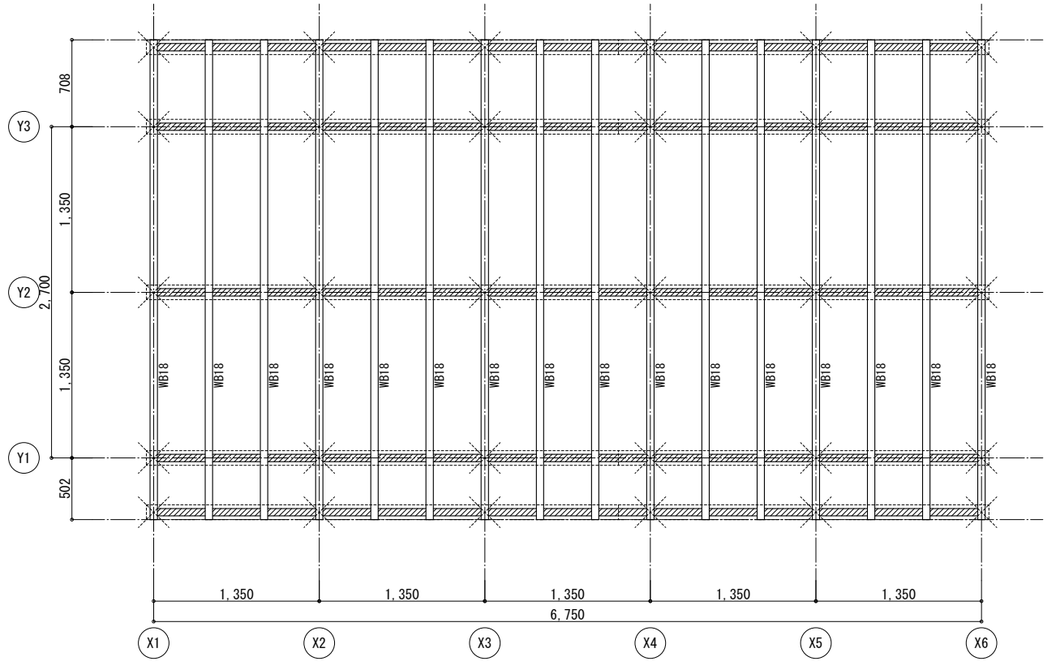
屋根伏図(1)

・梁上端 = SGL + 3,065
・ ×　は梁下の方杖、柱位置を示す。
・ ⊗　は通し柱位置を示す。



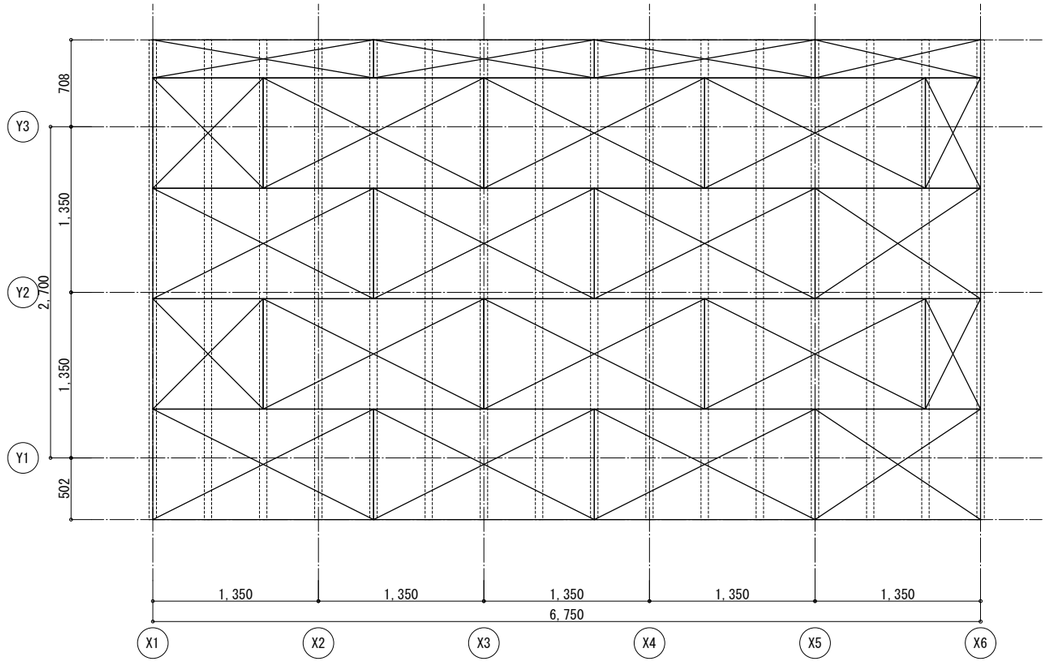
屋根伏図(2)

・梁上端(Y2通り) = SGL + 3,373
・梁上端(Y3通り) = SL + 3,981
・ ×　は梁下の方杖、柱位置を示す。



屋根伏図(3)

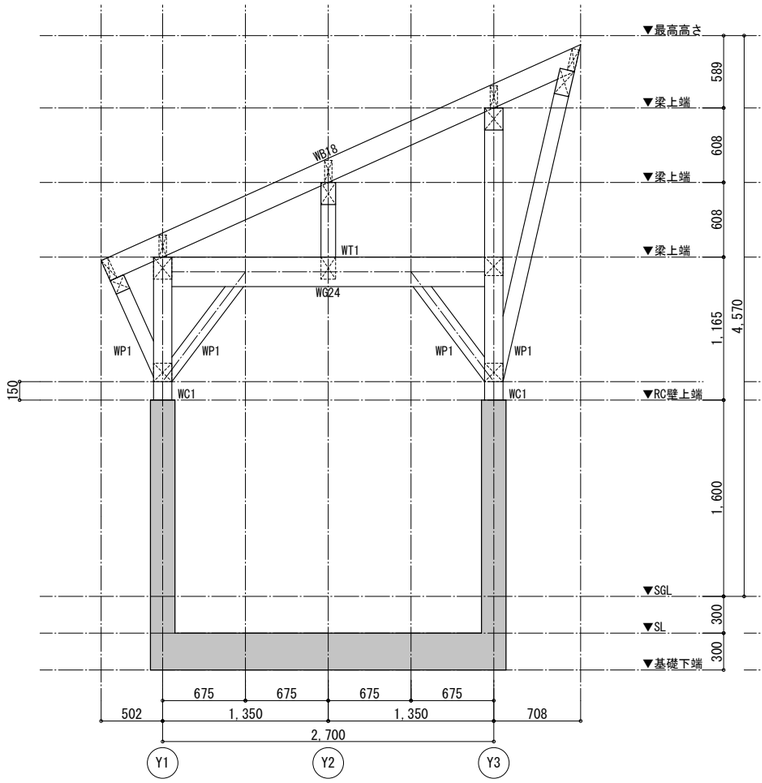
・最高高さ = SGL + 4,570
・垂木(WB18)の下端レベルは以下の通り
Y1通り = SGL + 2,765
Y2通り = SGL + 3,373
Y3通り = SGL + 3,981
・ ▨ は 転び止め(垂木と同材)を示す。



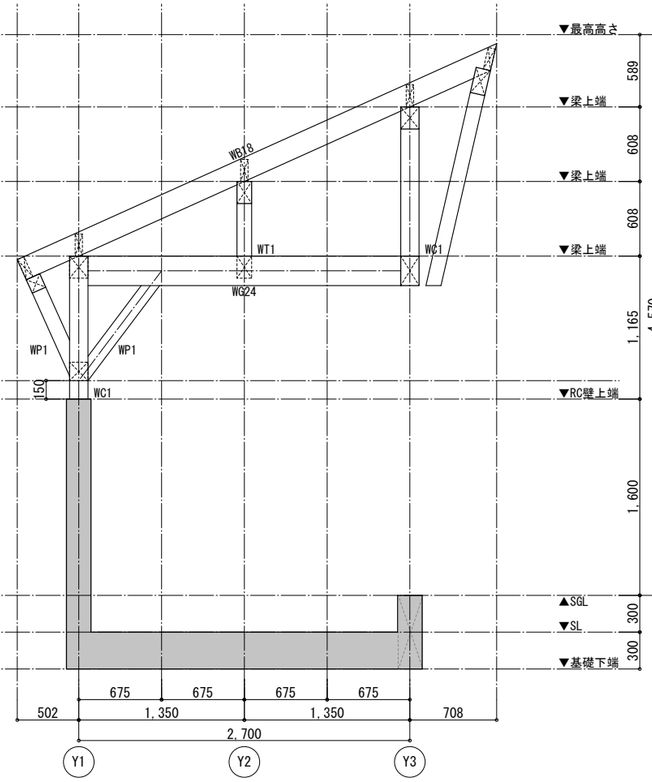
屋根合板配置図

・垂木上に設ける構造用合板はt24(川の字釘打ち,CN75@150)とする。

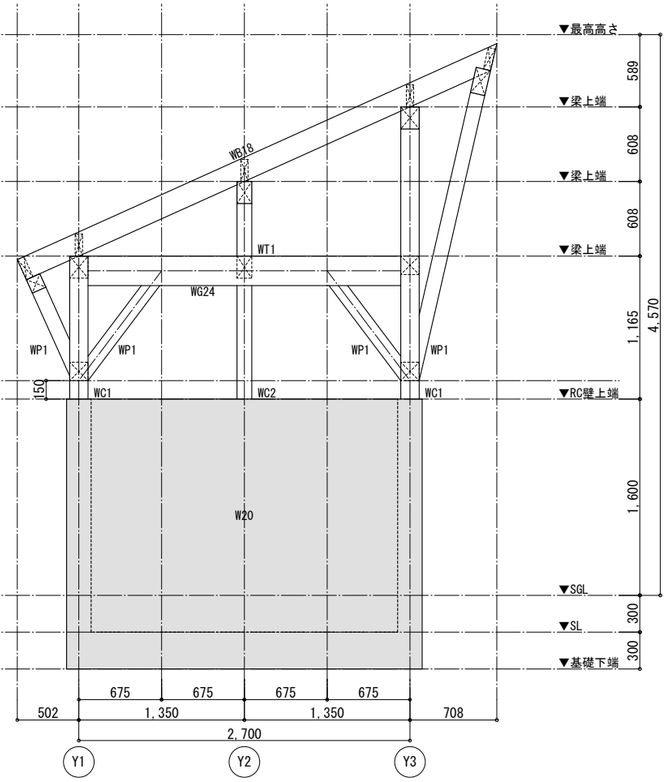
工事名称	令和8年度(翌債)妙高戸隠連山国立公園妙高高原ビジターセンターエントランス改修工事					
工事場所	新潟県妙高市関川2248?4				図面名称	妙高VC庇 伏図(2)
発注機関	中部環境局 信越自然環境事務所				縮　尺	1／50(A3)
公園名称	妙高戸隠連山国立公園				図面番号	2S08
検　査					設計者	名　称 (有)金箱構造設計事務所
						資格者氏名 金箱 温春
						登録番号 一級建築士 大臣登録 第122854号
						所 在 地 一級建築士事務所 東京都知事登録 第36591号



X1, X2, X3, X4通り軸組図

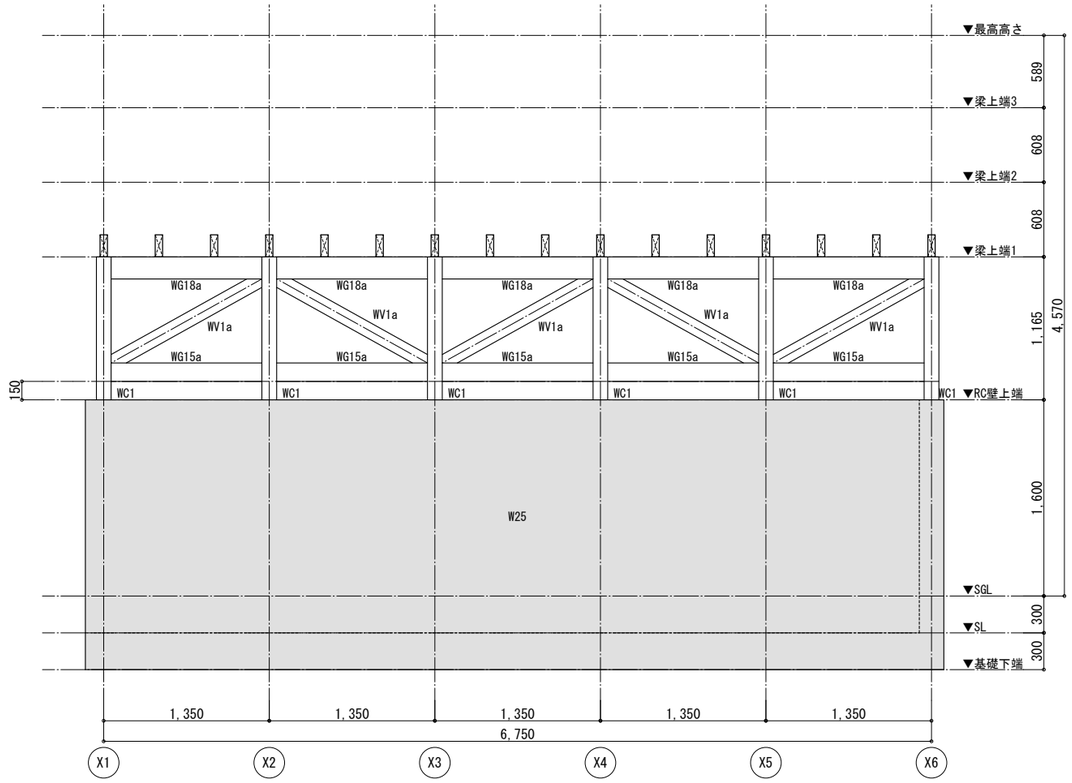


X5通り軸組図

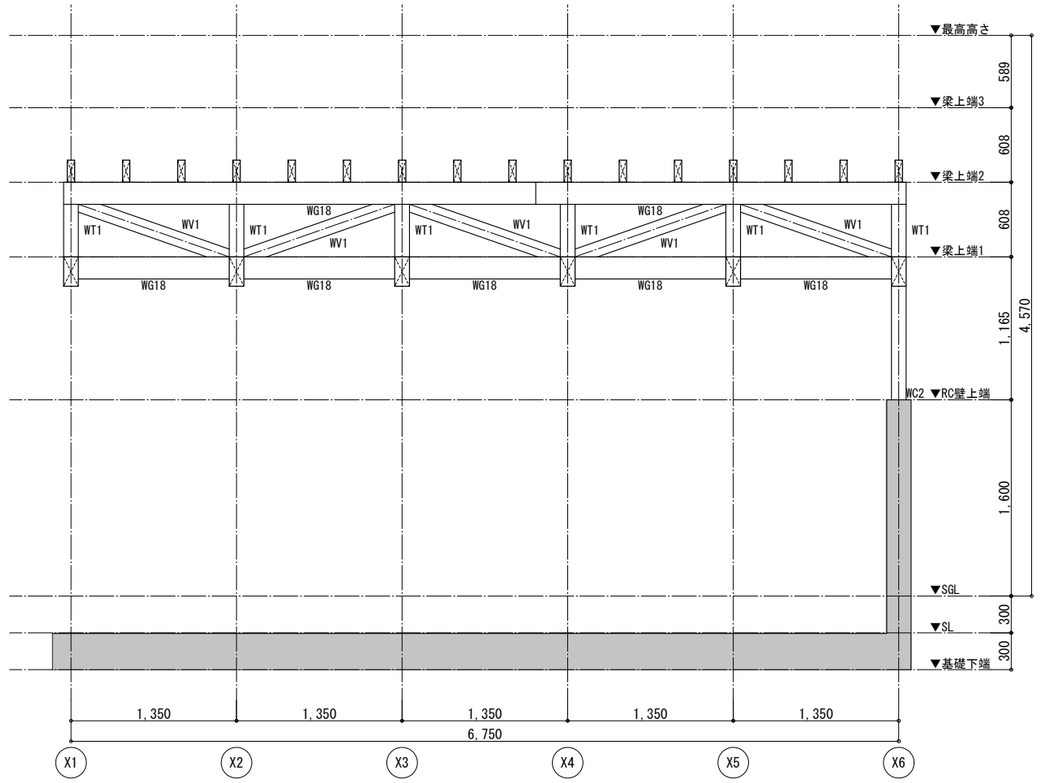


X6通り軸組図

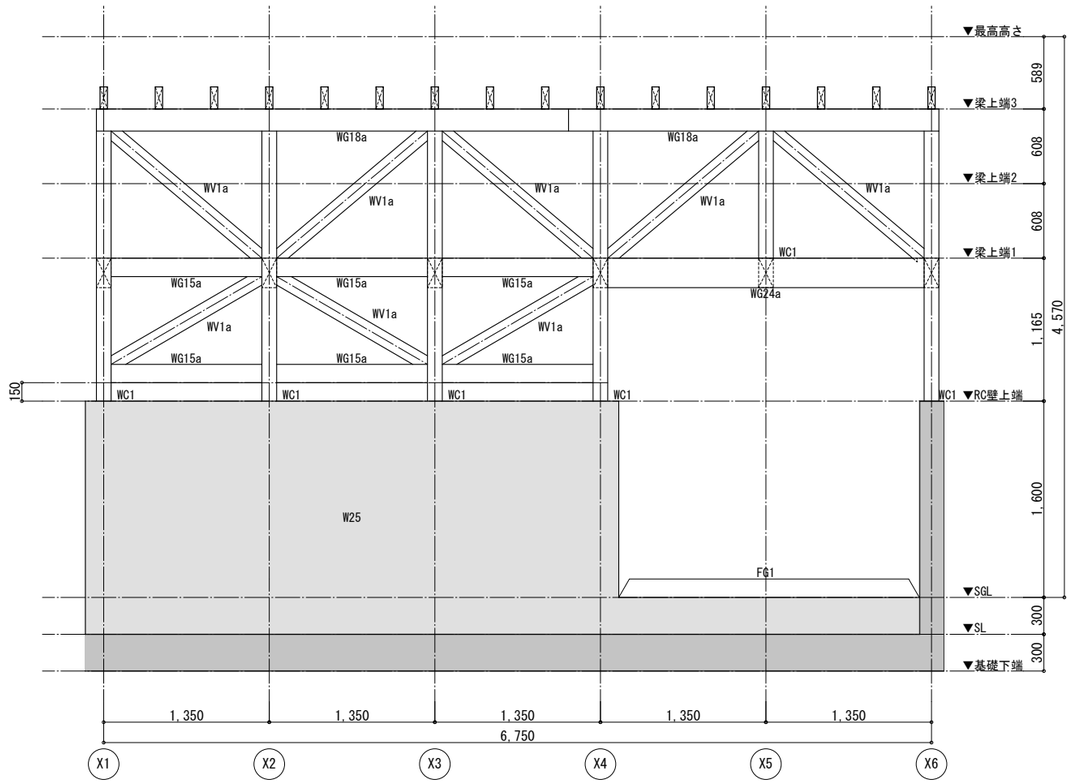
工事名称	令和8年度（翌債）妙高戸隠連山国立公園妙高高原ビジターセンターエントランス改修工事						
工事場所	新潟県妙高市関川2248?4				図面名称	妙高VC庇　軸組図(1)	
発注機関	中部環境局 信越自然環境事務所				縮　尺	1／50（A3）	
公園名称	妙高戸隠連山国立公園				図面番号	2S09	
検　査					設計者	名　称	（有）金箱構造設計事務所
						資格者氏名	金箱 温春
						登録番号	一級建築士 大臣登録　第122854号
						所　在　地	一級建築士事務所 東京都知事登録　第36591号



Y1通り軸組図



Y2通り軸組図



Y3通り軸組図

工事名称	令和8年度（翌債）中部環境局妙高戸隠連山国立公園妙高高原ビジターセンターエントランス改修工事		
工事場所	新潟県妙高市関川2248?4	図面名称	妙高VC庇　軸組図(2)
発注機関	中部環境局 信越自然環境事務所	縮　尺	1／50（A3）
公園名称	妙高戸隠連山国立公園	図面番号	2S10

検査					設計者	名　称	（有）金箱構造設計事務所
						資格者氏名	金箱 温春
						登録番号	一級建築士 大臣登録　第122854号
						所在地	一級建築士事務所 東京都知事登録　第36591号

スラブ 断面表 A1:1/30

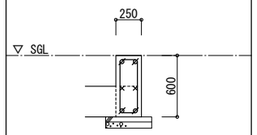
特記事項
・地業は敷砂利t60、捨てコンt50とする

符号	FS30
断面	
備考	-

符号	
断面	
備考	-

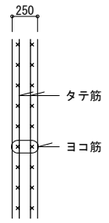
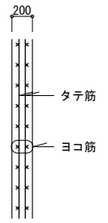
基礎梁 断面表 A1:1/30

特記事項
・幅止め筋はD10@1000とする
・地業は敷砂利t60、捨てコンt50とする

符号		FG1
断面位置		全断面
B x D		250 x 600
断面		
主筋	上端	2 - D16
	下端	2 - D16
あばら筋		□ - D13 @200
腹筋		2 - D10
備考		-

壁 断面表

特記事項
・幅止め筋はD10@1000とする

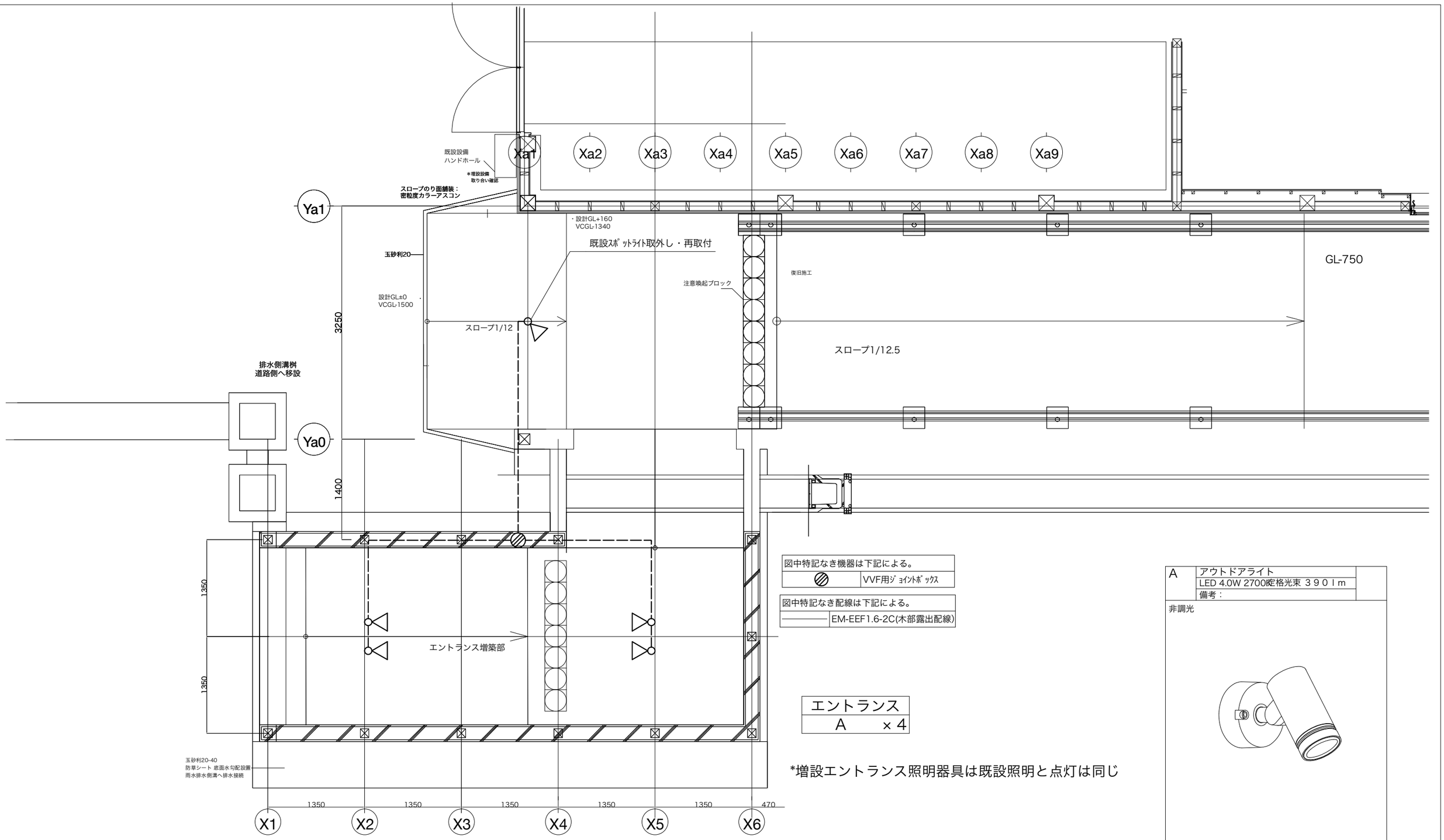
符号		W25	W20
厚さ		250	200
立断面			
壁筋	タテ筋	D16 @100 ダブル	D13 @200 ダブル
	ヨコ筋	D13 @200 ダブル	D13 @200 ダブル
端部曲げ補強筋		4 - D16	4 - D16
備考		-	-

木 断面表

特記事項
・ 集成材の接着材仕様は、使用環境Aに対応するものとする
・ 製材は含水率20%以下のKD材とする
・ 製材は監理者との協議の後、同等以上の強度・剛性を有する集成材としてよい
・ 集成材は監理者との協議の後、同等以上の強度・剛性を有する材種に変更してよい

種類	符号	材質	断面 B x D	接合部仕様	備考
柱	WC1	構造用集成材 カラマツ E95-F270(対称異等級)	120 x 150	柱頭：HDP-15(TATSUMI) 柱脚：PBH-63(TATSUMI)	-
	WC2	構造用集成材 カラマツ E95-F270(対称異等級)	120 x 120	柱頭：HDP-15(TATSUMI) 柱脚：PBH-63(TATSUMI)	-
束材	WT1	構造用集成材 カラマツ E95-F270(対称異等級)	120 x 120	柱頭柱脚：HDP-20(TATSUMI)	
方杖	WP1	構造用集成材 カラマツ E95-F270(対称異等級)	120 x 120	大入れ+2-PX8-280(パネリードX)	
斜材	WV1	構造用集成材 カラマツ E95-F270(対称異等級)	120 x 120	ほぞ + BLT M16	
	WV1a	構造用集成材 カラマツ E95-F270(対称異等級)	150 x 120	ほぞ + BLT M16	
梁	WG24	構造用集成材 カラマツ E95-F270(対称異等級)	120 x 240	登り梁-外周柱：TH-24(TATSUMI)	継ぎ手：大入れ蟻掛+引きボルトM12
	WG24a	構造用集成材 カラマツ E95-F270(対称異等級)	150 x 240	TH-24(TATSUMI)	-
	WG18	構造用集成材 カラマツ E95-F270(対称異等級)	120 x 180	TH-18(TATSUMI)	継ぎ手：大入れ蟻掛+引きボルトM12
	WG18a	構造用集成材 カラマツ E95-F270(対称異等級)	150 x 180	TH-18(TATSUMI)	継ぎ手：大入れ蟻掛+引きボルトM12
	WG15a	構造用集成材 カラマツ E95-F270(対称異等級)	150 x 150	TH-10(TATSUMI)	
垂木	WB18	構造用製材 スギE70	60 x 180	タルキック 1-TK5-165Ⅱ(SYNEGIC)	-
垂木転び止め	-	構造用製材 スギE70	60 x 180	梁に4-N75斜め打ち	
構造用合板(屋根)	-	JAS 1級 (特類,C-D)	t24	川の字釘打ち CN75 @150	-
鉄骨水平ブレース	SHV1	コボットブレース	丸鋼φ10	製品の使用に準拠する	-

工事名称	令和8年度(翌債)妙高戸隠連山国立公園妙高高原ビジターセンターエントランス改修工事				
工事場所	新潟県妙高市関川2248?4			図面名称	妙高VC庇 断面表
発注機関	中部環境局 信越自然環境事務所			縮 尺	1／60(A3)
公園名称	妙高戸隠連山国立公園			図面番号	2S11
検 査				設計者 名 称	(有)金箱構造設計事務所
				資格者氏名	金箱 温春
				登録番号	一級建築士 大臣登録 第122854号
				所 在 地	一級建築士事務所 東京都知事登録 第36591号



図中特記なき機器は下記による。	
⊘	VVF用ｼﾞｮｲﾝﾄﾎﾞｯｸｽ

図中特記なき配線は下記による。	
————	EM-EEF1.6-2C(木部露出配線)

エントランス	
A	× 4

*増設エントランス照明器具は既設照明と点灯は同じ

A	アウトドアライト
	LED 4.0W 2700ﾃﾞ格光束 ３９０ｌｍ
	備考：

非調光

ＤＯＬ－５７２４ＹＢＧ 大光相当品

工事名称	令和8年度（翌債）妙高戸隠連山国立公園妙高高原ビジターセンターエントランス改修工事					
工事場所	新潟県妙高市関川2248－４				図面名称	妙高VC庇 改修後電灯設備図
発注機関	中部環境局 信越自然環境事務所				縮　尺	1／50（A３）
公園名称	妙高戸隠連山国立公園				図面番号	E-01
					設計者 名　称	(有)金箱構造設計事務所
					資格者氏名	金箱 温春
					登録番号	一級建築士 大臣登録 第122854号
					所 在 地	一級建築士事務所 東京都知事登録 第36591号